



2020 第32回
千葉県建築学生賞作品集
*chiba architecture
graduate' prize Works*

<http://www.chibagakuseisyu.jp/>

第32回千葉県建築学生賞作品集 2020

2020
*chiba architecture
graduate' prize
Works*

第32回
千葉県建築学生賞作品集

千葉県建築学生賞協議会

2020.3.14 SAT — 2020.3.15 SUN
10:00-18:00 — 10:00-16:00

概要

展示・公開審査	2020年3月14日(土)10:00-18:00
展示	15日(日)10:00-16:00
会場	イオンモール幕張新都心グランドモール3F「イオンホール」 〒261-8535 千葉県千葉市美浜区豊砂1-1
主催	公益社団法人 日本建築家協会 千葉地域会(JIA千葉) 公益社団法人 千葉県建築士事務所協会 一般社団法人 千葉県建築士会 一般社団法人 日本建築学会関東支部千葉支所
後援	千葉県 / 千葉県教育委員会 / 千葉市 / 千葉市教育委員会 / NHK 千葉放送局 / 千葉県ケーブルテレビ協議会 / 朝日新聞 千葉総局 / 読売新聞 千葉支局 / 毎日新聞社 千葉支局 / 産経新聞社 千葉総局 / 株式会社日本建設新聞社 / 日刊建設工業新聞社 / 株式会社日刊建設通信新聞社

出典 作品

歴史を追想する参道	大隅 峻
纏わる壁域	中里 翔太
自然の“おもい”を形に	穀野 直貴
野田醸下捏造	大野 裕介
Knot	福田 風太
よみがえれ印旛沼	飯塚 駿輝
ツイグラシ	佐藤 佳歩
「かっこ」	高橋 玲央
TUNA(綱)	根本 崇伸
お茶の魅力を伝えるための空間デザイン提案	加納 あかり
ASO beans	藤井 朋美
地理的文脈を現す建築	岡田 吉史
私があなたに贈るもの	西村 寿々美
都市の麓で積層する公園	黒石 ゆうか
団地彩生	長坂 美空
百人町のうらみち・まなびみち	朱 泳燕
梅の香かおる学び舎	藤原 裕子
グリッド・サンド	小島 海月
「切断」すること、それは「繋ぐ」こと	横畑 佑樹
他人事じゃない話	仲山 千文
亡命の町	大野 めぐみ



千葉県建築学生賞協議会

第32回 *chiba architecture* *graduate' prize* 作品集 *Works*

目次

03	開催の報告と挨拶
05	審査総評
07	大学作品
49	審査経過
55	審査員紹介
59	協賛
60	主催者団体



開催の報告と挨拶

田端 友康 (たばた ともやす)
千葉県建築学生賞協議会 会長

新しい
生活スタイルと共に

第32回千葉県建築学生賞におきまして、開催についてご理解とご協力を頂き誠にありがとうございました。本年は、大学の部7大学11学科から21作品、高校の部3校3科5作品が出展され、会場はイオンモール幕張新都心グランモール内イオンホールにて、3月13日の搬入、14日のWEB配信による公開審査、15日の展示と搬出が行われました。新型コロナウイルス感染症による影響で他のコンクールが中止や延期の判断を取る中、準備も整った直前の段階での対応に迫られ、開催の是非について検討を重ねました。32年前の第1回から学生にエールを贈ることを目的としてきたことを今年も主題として、人を集めずに、審査の公正公平と学生にとって他者の意見を聞く機会を確保するため、WEB配信を利用するなどの対策のもと学生賞を行う決断をしました。

千葉県建築学生賞は、千葉県内の建築関連主催4団体と協力団体・協賛会から出向された50名を超える委員メンバーのボランティア運営により成立していて、約半年かけて準備をしてきました。それも直前になりWEB配信にしたことなど多くの変更の必要が生じ、接触を減らすため少人数で対応するために一部のスタッフに過度な負担となってしまいました。会場のイオンモール幕張新都心グランモール様に搬入・搬出時の接触を減らすため時間をずらす工夫をするために都合をつけて頂きました。県や市をはじめ報道機関の後援と協賛会社の支援も変わることなくご賛同をいただき、出展していただいている大学・高校の先生方にもご心配とご苦勞をおかけいたしました。そして今年の特別審査員アントニオ・エスポジト氏も

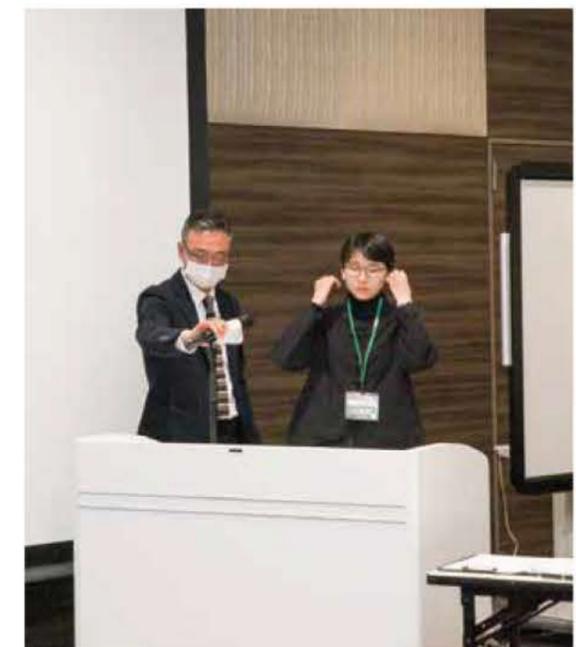


学生賞の趣旨にご賛同いただき、この様な時期にも関わらずイタリアより来日させていただき熱く審査して頂きました。皆様に改めて感謝申し上げます。

WEB配信となった公開審査は、今年は効果音を使ったムービーによるプレゼンテーションなどしっかり作り込んでアピールする学生もいて、出展した学生も他のプレゼンテーションを見たそうにしていますが、残念ながら密集しないように帰宅してもらい形とせざるを得ませんでした。例年のご来場していただいた市民の投票による「市民賞」や過去出展者の会一な花会による「なの花賞」など中止となった賞もありました。審査においても、例年と違い目の前で審査のやり取りや意見したりという形とは違ってしまったが、より審査員の闊達な意見交換が行われたと思います。モニターを通してとなりましたが、全力で取り組んだ作品を評価されるということが出展した学生たちにとって、大切なアンカーポイントとなってくれと信じています。出展した学生の皆様が更なる努力を重ね、次の時代・新しい時代を築いていくことを期待しています。

またWEB配信に踏み切ったことで、遠方であったり、会場に来れない方などより多くの方々にもご覧いただけることなど、新たな可能性も見えてきました。新しい生活スタイルが唱えられている昨今、我々から新しいスタイルの提案ができるように、建築文化・住文化について発信していかなければなりません。この学生賞に出展される作品にも可能性を見出し評価していく、学生たちが将来を担う人材として新しい時代に活躍できる環境をも考えていくことができれば、きっと素敵なことが起きます。素敵なことがあってもなくても、今後の建築界を支える彼らと共にエールを贈り続けるために、今後も引き続き皆様のご協力をお願い申し上げます。

第32回千葉県建築学生賞協議会 会長 田端 友康



審査総評

柳田 富士雄 (やなぎだ ふしお)
千葉県建築学生賞協議会 審査委員長

今年の審査は、審査員と出展者のみのプレゼンテーションと、ユーチューブ配信による公開と言う、前例のない公開審査となりました。各大学から21作品の出展があり、例年同様どの作品も大学の講評会を経てセクションされた代表として、しっかりとコンセプトの下に、力強くあるいは魅力的な作品でした。

審査経過

午前中の出展学生によるプレゼンテーションは、午後の公開討議へは参加出来ない為、10分/作品と言う例年に無い長い時間配分で、スライドを使った学生のプレゼンと、審査員からの質疑を行いました。どの学生も既定の時間内に力のこもった説明で審査員にアピールし、審査員の真摯な講評と質疑を受けました。事前に作品シートを渡され、また、作品巡回でしっかりと見ていた事もあり、審査員の対応も十分な理解に基づく簡潔で的確な質疑と講評となったと思います。

午後の審査は、ユーチューブ配信による公開審査、審査員による討議、投票を繰り返して作品を絞り込み、各賞を選出しました。第一段階の討議と投票で8作品に絞り込まれた作品は、それぞれ異なる視点でのテーマ設定と提案ではありますが、取り組みへの熱意とその結果として比較的完成度の高い物が選ばれました。

第2段階、3作品への絞り込みの段階では、審査員の個性、好みが出て、討議がヒートアップ、票も割れて対象となる5作品に絞り込まれました。その中で「切断する事それは繋ぐ事」は、第一段階から大勢の審査員の支持もあり、一抜けで最優秀に選出されました。

この作品は、日本橋の首都高速道路を切断して日本橋を表に出すとともに、高速道路上に木組みを挿入し、過去から現在までの日本橋の都市機能を入れる提案で、大胆で緻密な模型と浮世絵を用いた美しい表現は「過去と現在、そして未来を繋ぐ」というコンセプトを十分に表現し多くの審査員、特にアントニオ氏を魅了しました。

優秀賞2作品への選出は、4作品について甲乙つけがたい状況、審査員も完全に割れて難航しました。「纏わる壁域」は高く威圧感のある刑務所の壁の周りに、新たに軽やかな一枚の壁を入れる事で、街を取り込み、刑務所との境界を曖昧にするというコンセプトで、ひらひらと纏わり付く美しい壁が、刑務所と言う「社会的負の施設の風景を一変させる壁の力」を感じさせる作品で、まず選出されました。

もう一つは「ツイグラシ」建築家アルド・ヴァン・アイクについて調べ、対概念によって強く印象に残る空間について分析したという作品は、「暗い×明るい」「閉める×開く」と言う様な対概念によって生活しながら強い感覚を得られる住まいをつくる提案、積層された立体住居は魅力的な住空間として選出されました。

この後、選出された3作品を除くすべての作品を対象に特

別賞の審査投票が行われました。「TUNA(綱)江戸川での橋の設計は、歩行者、自転車を通る綱を纏った形態のチューブが絡みつく、特異な形態による橋の風景として、その確かな造形力で評価されました。

「百人町のうらみち、まなびみち」は留学生の生活の拠点である新宿区百人町で、三つの敷地に学びを広げる「導線としての建築」の提案、留学生としての自身の体験から街づくりへの提案は現実的課題への深い洞察に基づく提案として選出されました。

今年の審査を振り返って

ここ数年審査に関わり今年は3度目の審査委員長を務めました。かつての「まだ見ぬ未来への夢と期待から、3.11以後のパラダイムシフトへの提案」は影を潜め、社会の変遷、特に「縮小経済・高齢化社会」と言う建築に求められる課題も益々現実的になる中、卒業設計に於いてもそんな現実を下敷きに、如何に夢を咲かせるかと学生たちが頑張っている様子が感じられます。

最優秀となった「切断する事それは繋ぐ事」も高速道路の再整備による日本橋の再生「都市の麓で積層する公園」や「団地彩生」と共に老朽化する都市インフラ、建築を再生するテーマの作品でした。優秀賞の「纏わる壁域」は刑務所を街へ開放する提案、同様にホームレス自立支援施設やかつてはごみ処理場や墓地等の嫌忌施設を街へ開く提案です。

もう一つの優秀賞の「ツイグラシ」は純文学的作品、多くの社会的条件(しがらみ)から離れて、空間構成論のみに焦点を当てた提案、私小説的な「他人事じゃない話」、形態指向の「自然のおもいを形に」等、純粹に建築を考える作品が揃って新鮮でした。

社会的弱者である、高齢者とターミナルケア施設や子供の環境づくり、また、自身の住む身近な街づくりをテーマにした作品は今年も具体的で説得力ある作品が多数出て来ました。また、「歴史を追想する参道」「野田醸下捏造」についても、確かなテーマ設定と計画論を展開した、卒業設計の秀作として評価したいと思います。

以上、3.11以来、未曾有の状況の中、卒業設計への熱い思いを必死にプレゼンした学生諸君と、それをしっかりと受け止め、審査した審査員一同、無事に審査を終え、納得感ある結果を出す事が出来たと思います。また、初の試みとして、特別審査員としてイタリアから参加頂いた建築家アントニオ氏にはこのような状況にかかわらず熱心に審査頂き、国際的視点から講評頂く事ができました。改めて、学生諸君の未来へ期待のメールを送ると共に、審査に協力していただいた皆様に感謝したいと思います。

特別審査員 感想コメント



特別審査員

Arch. Antonio Esposito

dear all

I would like to thank all the people involved in the organization of the Chiba Architectural Graduate's Prize for their invitation to participate in this prestigious jury, allowing me to get to know the reality of architectural teaching in Japan, of great interest for my cultural horizon.

Together with colleagues of great professional level, we were able to examine 21 works of the highest quality offered by young graduates from various Japanese architecture schools. Projects that have addressed in an excellent way and in the most varied ways, different themes among the many that the city and contemporary society offer today for the attention of the disciplinary debate.

The winner project - by widely shared consensus - brilliantly addresses the theme of the reconversion of the construction of the second half of the twentieth century - the freeway that currently covers the Nihonbashi bridge in Tokyo -, starting from the remains of its next demolition and reusing it in part, proposes a new architectural emergency, a monument of the contemporary city that takes shape in the wake of the expressive and constructive tradition of traditional Japanese architecture.

A warm greeting to all

Antonio Esposito

切断すること、それは繋ぐこと

—日本橋における歴史を切断した首都高の再歴史化—



作品紹介はこちら

日本橋上空に首都高速道路が誕生してから五十七年。
建設当初に批判されてきたものが今では歴史の一部となった。
現在、その「遺産」が取り壊されようとしている。
白紙にするのではなく修復し、歴史に戻す「再歴史化」を行う。
本提案は日本が繰り返す「歴史の切断」に対する警鐘である。

chiba architecture graduate's prize 2020

No. 19

横畑 佑樹 よこはた ゆうき

日本大学 理工学部 海洋建築工学科



審査員 河内 一泰

以前、日本橋の上にかかる首都高が撤去されるというニュースを見た。江戸時代の東海道の起点である日本橋の姿が陽の光の中に現れ、緑化された水辺空間と共に東京の顔となる場所になるようだ。この作品はその「日本橋再生計画」のカウンターとなる提案である。歴史的な日本橋と同等に、首都高も近代の都市の遺構として活かすため、巨大な高架の道路を切断し、転用する事によって歴史を繋いでいくという提案である。

一般的に都市において歴史的な建造物に関わる再開発は、古いものの方に重きを置くことが多い。しかし、この作品では、どの時代にも加担せずフラットに扱っている。そのスタンスにとっても共感した。考えてみれば東京の風景とは、いろんな時代のものが混じっているし、その多重性が面白さであると思う。

切断された巨大なスケールのコンクリートの高架道路と、木架構の人間スケールのグリッドフレームの対比が効果的である。コンクリートの道路の上下に木架構がまわりついているのだが、一体化することなく同時に存在している点が面白い。

「せつだん」することそれは「つなぐ」こと

「切断」すること、それは「繋ぐ」こと

日本橋における歴史を切断した首都高速道路の再歴史化

産業革命以降、歴史の連続性を否定する建造物が増加していった。これを歴史の切断と名付けた。日本橋における大きな歴史の切断は首都高の建設である。そして現在、日本橋上空の首都高を地下へと移動し、高架橋を取り壊すことが決定している。しかし、この計画も歴史の切断ではないだろうか。そこで首都高を一部残しつつ、継ぎ手となるような修復を施していく。本提案では切断という設計手法を用いる。切断によって空いた余白に木組みを挿入し、過去から現在までの日本橋の都市機能を入れていく。通常時には、都市型道の駅として都市の拠点となり、祝祭時には首都高が日本橋を引き立たせる舞台装置としての役割を果たし、ハレとケの二面性を持つことで過去と現在、そして未来を繋ぐ。

作品詳細



断面図

01. 歴史を切断した首都高

歴史というものは継承や再生によってさまざまな事象が少くもつ積み重ねることによって紡がれる。しかし、産業革命以降、歴史の連続性を否定する建造物が増加していった。これを「歴史の切断」とも呼ぶ。日本橋における大きな「歴史の切断」は「首都高の建設」である。日本橋に重なるように建てられた巨大なコンクリートの高架道路によって江戸時代から続いていた歴史が切断されてしまった。

02. 繰り返す「歴史の切断」

2020年東京オリンピック以降から日本橋の1.9km区間の首都高を地下へと移動し、残った高架橋をすべて取り壊そうとする計画が発表することが決定している。しかし、この計画も歴史を切断していることになるのではないだろうか。

03. 首都高速道路の「修復」

新しく歴史を繋ぎたいのではなく、繋ぎたいという意識を持って、そこを修復をしようとする。切壊されてしまった歴史を再び繋ぎたい。「修復」による新たな歴史を繋ぎたい。

04. 歴史に残すための「切断」

首都高を地下へと移動し、残った高架橋をすべて取り壊そうとする計画が発表されている。しかし、この計画も歴史を切断している。そこで首都高を一部残しつつ、継ぎ手となるような修復を施していく。本提案では切断という設計手法を用いる。切断によって空いた余白に木組みを挿入し、過去から現在までの日本橋の都市機能を入れていく。通常時には、都市型道の駅として都市の拠点となり、祝祭時には首都高が日本橋を引き立たせる舞台装置としての役割を果たし、ハレとケの二面性を持つことで過去と現在、そして未来を繋ぐ。

05. 余白に都市機能を「蓄積」

「切断」によって空いた余白に木組みのグリッドを挿入し、過去から現在までの日本橋の都市機能を入れていく。通常時には、都市型道の駅として都市の拠点となり、祝祭時には首都高が日本橋を引き立たせる舞台装置としての役割を果たしていく。この提案は日本が繰り返す「歴史の切断」に対する警鐘である。

06. 二面性を持つ建築

通常時には、「都市型道の駅」として地上交通網と地下交通網の両方があり、かつての日本橋にあった都市の拠点となる。祝祭時には祝祭するところを舞台とした舞台装置として、首都高が日本橋を引き立たせる「舞台装置」としての役割を果たしていく。この提案は日本が繰り返す「歴史の切断」に対する警鐘である。

07. 都市機能の抽出

日本橋は時代によって都市機能を変えていく。時代ごとの都市機能を抽出し、木組みの構造に挿入していく。機能に合わせて空間構成を整え、木組みを構築させていく。高架道路であったストリート性を復活し、この機能を多く取り戻すことで都市の拠点となる。

08. 未来へと繋ぐ建築

時代に合わせた木組みの構造によって歴史の一部になる。首都高がタイムスではなくグラスの役割としてこれからの時代に活かされていく。切断した首都高が再び、木によってつながる時代もあるかもしれない。その時は歴史を繋ぐ「修復」ではなく、歴史を繋ぐための「切断」になる。



平面図

No.19/21



纏わる壁域

～ある街に寄生する広場～

刑務所の壁。それは普段の生活では中々出会うことのない無表情なただの壁である。囲いとしての役割のみを担い、その圧迫さ故に人が寄り付きにくくなっている。威圧的な壁の周りに新たな一枚の壁を設け、街と融合した様々な広場空間を演出する。壁が創る街の広場「壁域」の提案。

作品詳細



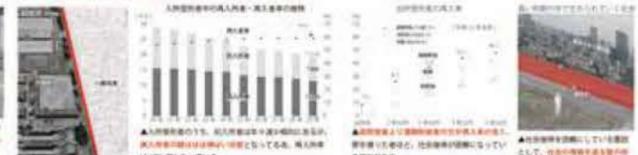
市民が使えるワークスペース。2Fは受刑者たちの健力道施設

01 マチと刑務所を隔てる6mの壁

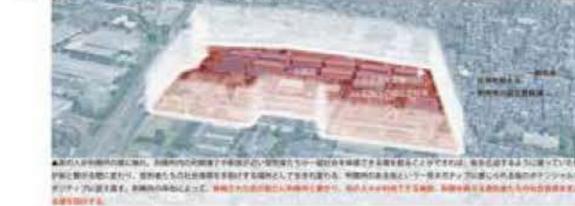
1-1 一般社会から見た刑務所の壁



1-2 社会復帰が難しい受刑者たち



1-3 街、人、刑務所の関係性を再構築する新たな領域の提案



02 敷地



No.2

中里 翔太 なかざと しょうた
日本大学 生産工学部 建築工学科



審査員 河原 泰

優秀賞

JIA出展作品



作品紹介はこちら

まとわるへきいき

纏わる壁域

ある街に寄生する広場

刑務所の壁。街に圧迫感を与えるように建つ無表情な壁は、囲いとしての役割のみを担い、その圧迫さ故に人が寄り付きにくくなっている。本計画は威圧的な壁の周りに新たな一枚の壁を設計することで、街を取り込み、刑務所との境界を曖昧にする。街・刑務所の両者に対して壁が新たな表情を持つ。街にとっては刑務所内の生活に近い機能が体験できたり、街の機能が刑務所内に入り込むことで壁の概念が変わり、刑務所にとっては外の社会が見えたり・聴こえたりすることで、戻るべき社会をより身近に感じることができる。「既存の壁」と「新たな壁」。2枚の壁が織りなす領域「壁域」の提案。

圧迫感のある無表情な刑務所の壁は、多くの人が嫌悪感を抱くものであり、これまでも植樹をすることや絵を描くことでなんとかごまかそうとしていた。この計画は、既存の壁の内外を自由に横断する新たな壁を設けることにより、刑務所の壁と壁の間という特殊な領域をつくりだした。その領域の使われ方は、壁の中の使われ方とともに、単なるアイデアではなく、多くの共感が得られる社会的な必然性をもう少し吟味すべきであるが、問題のある既存の壁を、お化粧やごまかしではなく、領域の中に包含して積極的に活かす考え方は、刑務所の壁だけではなく他の建築物や工作物にも応用できる可能性を感じ、高く評価したい。



既存の壁のアーチと新しい壁が繋がる

街のマーケットでは住民と看守の交流も生まれる

工場と広場の賑わいを受け取る側面庭園ができる



No. 7

佐藤 佳歩 さとう かほ
日本大学 生産工学部 建築工学科



審査員 田村 裕希

まるで生活のスタディだと思った。

建築はスタディと呼ばれる検討の段階を経て提案にいたる。スタディを通して昨日極端に思えたものが今日は説明できるような気がしたり、普通のなかに極端を発見することもある。つまりはじまりとおわりで感覚に変化が起きるのがスタディといえる。築地の一角に計画されたこの宿泊施設は、日常の中で短期間非日常を体験する高級ホテルとは異なり、長期間滞在することで「研ぎ澄まされた感覚」を生活の中に持ち帰ることが意図されている。建築を「生活の検討」のために活用することで、人間の感情や行動様式の変化を見据えるこの作品は今回最も時間の射程の長い作品だと思った。

優秀賞 JIA出展作品

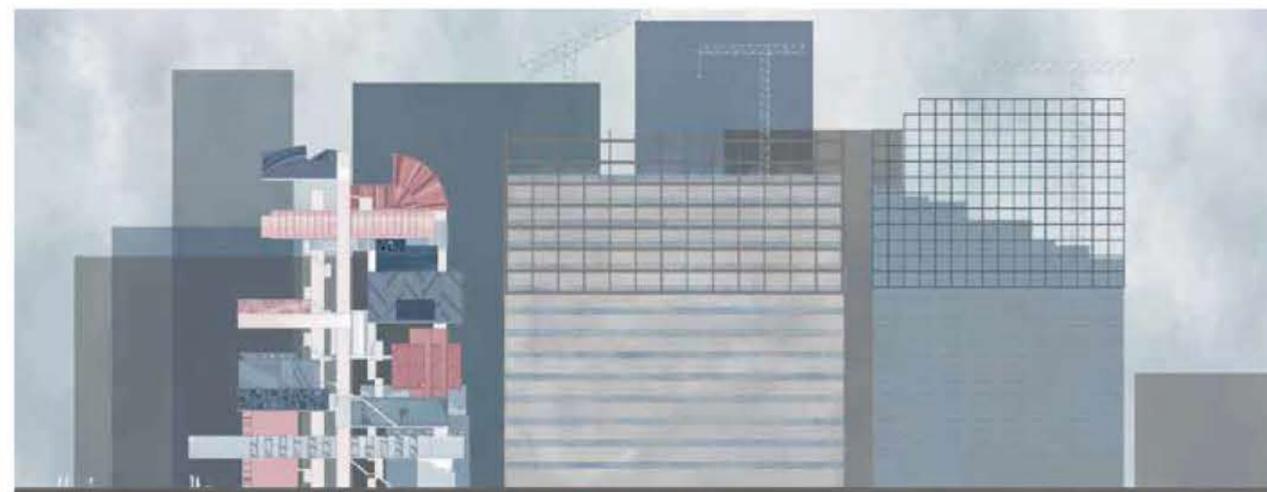


作品紹介はこちら

ツイグラシ

卒業研究で、建築や環境においてインテリアによって人間の感情や行動様式を操作する作品やテキストを残している建築家アルド・ファン・アイクについて調べ、対概念によって強く印象に残る空間について分析した。卒業制作では対概念によって生活しながら強い感覚を得られる住まいをつくる。人々は己の感覚を研ぎ澄ませ、住まう。ツイグラシでの体験は強く記憶され、人々に住まうことに対しての新たな価値観を与える。そして元の日常に戻った時、またこの暮らしを求めようになる。より多くの人々にこの体験を提供するために長期滞在型の宿泊施設として築地の跡地の一部に計画する。18の対概念によって作られ、それらを組み合わせてきたツイグラシは増殖していくことも想定され、周囲には高級ホテルが集まり浜離宮を望むその場所は実際に体験したい誘惑にかられる。

作品詳細



1 対概念

thought

アルド・ファン・アイクが定義する建築思想の1つ
物事を対比することにより、1つの物事を忘却させると同時にそれと対比する1つの物事を強調することができる。
対概念は人間の自覚性や行動様式、自然や時間に基づいており、連続的な構造を持つ概念である。連続的な構造により発生する複合性は、対概念がもたらす対照的関係の列挙ではないこと、また対関係の可塑性を示している。



開いた空間があるから閉じた空間を感じる
閉じた空間を感じたとき、開いた空間は忘れられている
開いた空間を感じたとき、閉じた空間は忘れられている

開けることができるから閉めることができる
閉めることができる、開ける動作は忘れられている
開けることができる、閉める動作は忘れられている

対概念によってつくられた空間はより深く本質的な体験をもたらすといえる。

2 ツイグラシ

concept

多くの人々は住まうことに対して多くを求めていないように感じる。
そこで対概念を利用して生活しながら強い感覚を得られる住まい「ツイグラシ」をつくる。

ツイグラシでの体験は、人々に住まうことに対しての新たな価値観を与え、元の日常に戻った時、またこの暮らしを求めようになる。

より多くの人々にこの体験を提供するために宿泊施設としてこの住まいの提案をする。

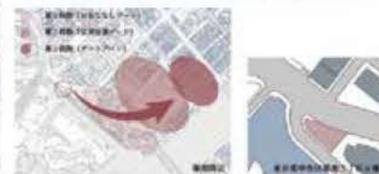


3 尖端的異端児

site



◎ 都心3区
中央区、千代田区、港区の3つの区をまたぐこの地域は、高層ビルが立ち並び、上質な宿泊施設が数多く点在している。そんな宿泊施設の激戦区に「住まう体験」だけを軸とした宿泊施設を設計する。
◎ 築地
築地は2020年以降に再開発が予定されている地区である。東京都は、日本の成長に大きく寄与する国際的な交流拠点として築地を復興させようとして計画している。
築地開発の先駆けとなる建築としてこの宿泊施設を提案する。



4 対概念の住まいへの具体化

program outline

対概念を住まいに具体化するためには、交互性によって、不断に回復される平衡（秩序）のもと、本能的に成立させる必要がある。交互性のある列は自然や時間に関わるものが多く、アルド・ファン・アイクの定義と一致する。（⇒ 1）

また、無限に存在する外部に対して、対概念により作り出した内部は、固定（⇒秩序）と変換（⇒不安）によって内部として保持することができると考えられている。



対概念として保持するため

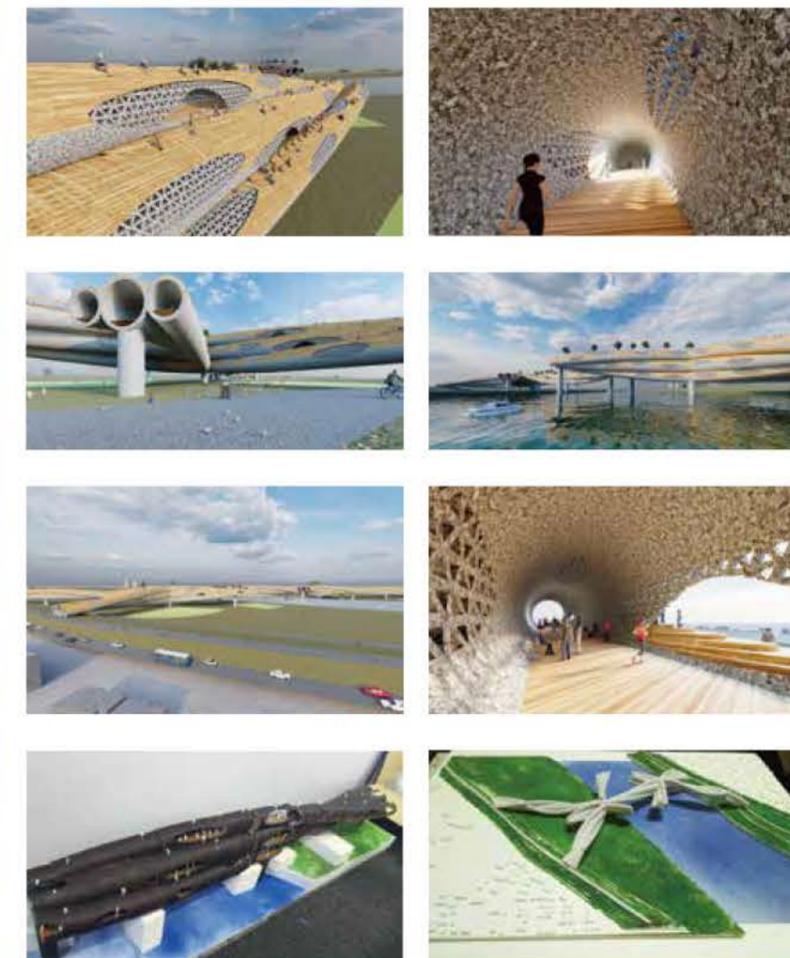
混沌（⇒秩序）

各住戸はエレベーターの入口と数回しかの目立たぬ壁と床、柱によって支えられている。これらのランダムな共用部は異なる住戸が混雑と絡み合う中、秩序を保つ。

定数（⇒不安）

長期的視野でツイグラシは徐々に変化していく。変化し続けるながらもここに在り続ける。





No. 9

根本 崇伸 ねもと たかのぶ
東京電機大学 未来科学部 建築学科



作品紹介はこちら

特別賞

つな(つな)
TUNA(綱)

江戸川での橋の設計

近年、大きな被害をもたらした、2019年の台風21号や同年、後期に放送されたドラマの影響により川や橋が注目されている。

川は、水を海に流しつつ人々に水を与える、一方、橋がないと渡れないため、場所と場所を分け、交通機能に不便さを与えている。

もし、橋があったとしても、長距離の移動は、人々に退屈さを与える。

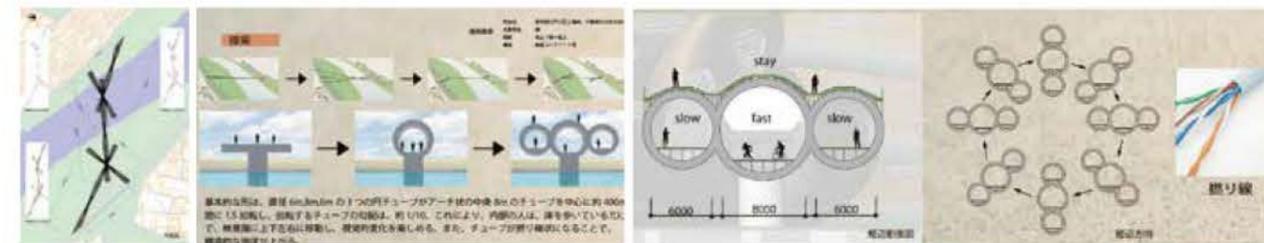
そこで、橋がなく不便な場所に長距離の移動でも、人々に退屈さを与えない橋を提案する。



審査員 河原 泰

細かなところにとらわれず、自分が面白いと感じる建築を純粋に提案に結び付けた点を評価したい。現時点ではこのおもしろさを大切にしてほしいが、これからレベルが上がるに従い、このままでは説得力に欠けることを感じるはずである。据じったチューブは引張強度を増大させるが、それが大スパンを架け渡す橋にとって効果的なのか、400mの全長の中で外に出られる場所が2か所だけで良いのか、6mの2本のチューブと8mのチューブが連なる計20mの塊が長く伸びる姿は近づいて見た時にどのように感じるのか、多面的な考察を加えて説得力のある提案に昇華してほしい。

作品詳細



交通機能と移動空間を楽しむ橋

初めに
川は、水を海に流しつつ人々に水を与える、河川敷はスポーツ施設と緑を与えているが、一方、橋がないと渡れないため、場所と場所を分け、交通機能に不便さを与えている。橋があったとしても長距離の移動は、退屈さを与える。そのため、橋がなく不便な場所に長距離でも退屈さを与えない橋を計画する。



敷地

東京都と千葉県境を流れる江戸川の下流地域である。江戸川区瑞穂と市川市大洲の間。この地域では、江戸川は、堤防の距離が約500m、堤防の高さが約8mもあり比較的に大きな川であるため、対岸に行くには長い橋を渡る必要がある。しかし、この地域は、人と自転車が渡れるような橋が約4.5kmにわたって存在せず、交通機能が不便な場所である。また、周辺の地域は、住宅地であるため、交通機能も上げ過ぎると住民に被害が及ぶ可能性が存在する。





作品紹介はこちら

No. 16

朱 泳燕 しゅ えいえん

東京理科大学 理工学部 建築学科



審査員 柳田 富士雄

自ら留学生としての生活体験に基づき、街づくりへの課題と手法を「まなび」というキーワードで提案した作品です。大勢の外国人とりわけ留学生が暮らす新宿区百人町を舞台に、3つの敷地を「学びを広げるための導線としての建築」として選び、それぞれテーマを持った街づくり提案がされています。「暮らしや文化を共有するSHOW TENGAI」、「地域に開かれた全ての国籍の人のためのJYUKU」また、「文化や知識を分かち合うSENT TO YOU」というコピーはなかなか面白い言葉で、楽しそうな街づくりイメージが表現されています。

その展開は、「増える留学生と追いつかない受け入れ環境」という課題から、「建築操作と人の振る舞いから新たな学びの場を」というプログラム設定、「留学生の生態系」という現状分析から「学びの場から再編する都市」という提案まできちんと練られています。

自らの体験上、異国文化の混ざり合う中での交流の難しさから、その仕組みと場所づくりに様々なアイデアが盛り込まれています。敷地毎にその特性を生かした持続的な仕組みと、具体的な学びと交流の形が提案され、地元の人と外国人との交流風景が想像できます。

一方、個室群とコモンスペースで構成される街は、一見すると大きなシェアハウスの様な街づくりとなっていますが、特に「個室は寝る事と…最低限の面積を与えその他機能を皆で共有する」事からベッドだけの寝室が並ぶ5~8人で構成される住空間がかつ「寮」を想起させて、異国で暮らす若者の小さいけれど豊かなプライベート空間としてもう少し細かく提案が有ったら良かったかと思えます。

何れにせよ、留学生として自ら生まれる問題意識から、現状分析と街づくりへの具体的かつ魅力的提案を行った事に敬意を表し、留学生だから出来る将来へ期待したいと思えます。

ひやくにんちょうのうらみち・まなびみち

百人町のうらみち・まなびみち

留学生の生活から揺るがす住まいと都市

日本は留学生の受け入れを増やしているが、本質的な受け入れが整っていない。留学生の生活の拠点である新宿区百人町で、3つの敷地に学びを広げる「導線としての建築」を提案する。それぞれの敷地で街から学ぶための持続的な仕組みを作り、建物やインフラを巻き込みながら新たな導線を設け、これらに学びの場が絡みつく構成になる。例えば敷地1では路地と商店街を巻き込み、日本語学校の教室と寮を設ける。敷地2では隣の専門学校や歩道橋を巻き込み、様々な学びの場を作る。敷地3では改築したシェアハウスと新築の銭湯を、留学生と利用者の動線を絡めるように複合させる。

以上、三つ合わせて、留学生を段階的に受け入れる形にし、百人町を再編していく。

作品詳細

0 年々増える留学生と追いつかない受け入れ環境
「留学生30万人計画」により日本は年々留学生の受け入れを増やしているが、本質的な受け入れが整っていない。とりわけ、英語、教育の問題があるが、いかに必要なスキルを習得させるか、さらに、日本語学校において学びが提供されているからだと考える。

1 都市に介入する建築操作と人の振る舞いから新たな学びの場を
日本語学校での学びは必ずしも、街中地域に生かされ、あるいはそこで働く人々と触れ合える機会をもたない。新たな「学び」の場を考えた。

2 留学生の生態系-百人町における留学生の生活の流れとたまり
百人町は、歴史的に外国人の多い地区であり、各国の文化が入り混じり、多岐にわたる背景から日本語学校が集中しており、留学生が多くの時間を過ごす場所。

3 提案 留学生の学びの場から再編する都市
各国の飲食店が立ち並ぶ商店街をどうするかの課題がある一方で、それらに隣接する商業施設に存在する多岐にわたる用途の心算はどのように活かすか、また、日本人の生活に新たな国際性を付与させることである。

① 利用者同士のつながり
個室は個室として個室のままであるのではなく、その隣の個室を共有する仕組みを設ける。また、個室の共有する空間を設けることによって、内装を共有し、人の生活を豊かにする。

② 近隣の活動のつながり
建物同士の隙間を生かしながら、歩道、広場、公共空間を共有し、近隣の活動とつながり、歩道に公共空間を設け、歩道に公共空間を設ける。

③ 都市的なつながり
建物の隙間、道路などのインフラによって形成されていた百人町において、建物をつなぎとりながら歩道橋や、歩道、広場、公共空間を共有し、歩道に公共空間を設ける。百人町に新たな国際性を付与させる。

site1 site2 site3

Aさん (在住学生) 18歳/中国人/女子 日本語学校1年生 SITE 1 在住

Bさん (在住学生) 22歳/日本人/男子 日本語学校2年生 SITE 1 在住

Cさん (卒業生) 22歳/アメリカ人/女子 大学3年生 SITE 2 講師

Dさん (卒業生) 25歳/韓国人/男子 建築関係会社 勤務 SITE 2 講師

4 3つの敷地-学びを広げるための「導線としての建築」

Site1 街から学ぶための持続的な仕組み、暮らしや文化を共有するSHOW TENGAI

Site2 中国人専門の暮らし、地域に開かれた全ての国籍の人のためのJYUKU

Site3 建築から、文化や知識を分かち合う SENT TO YOU

1. 街から学ぶための持続的な仕組み

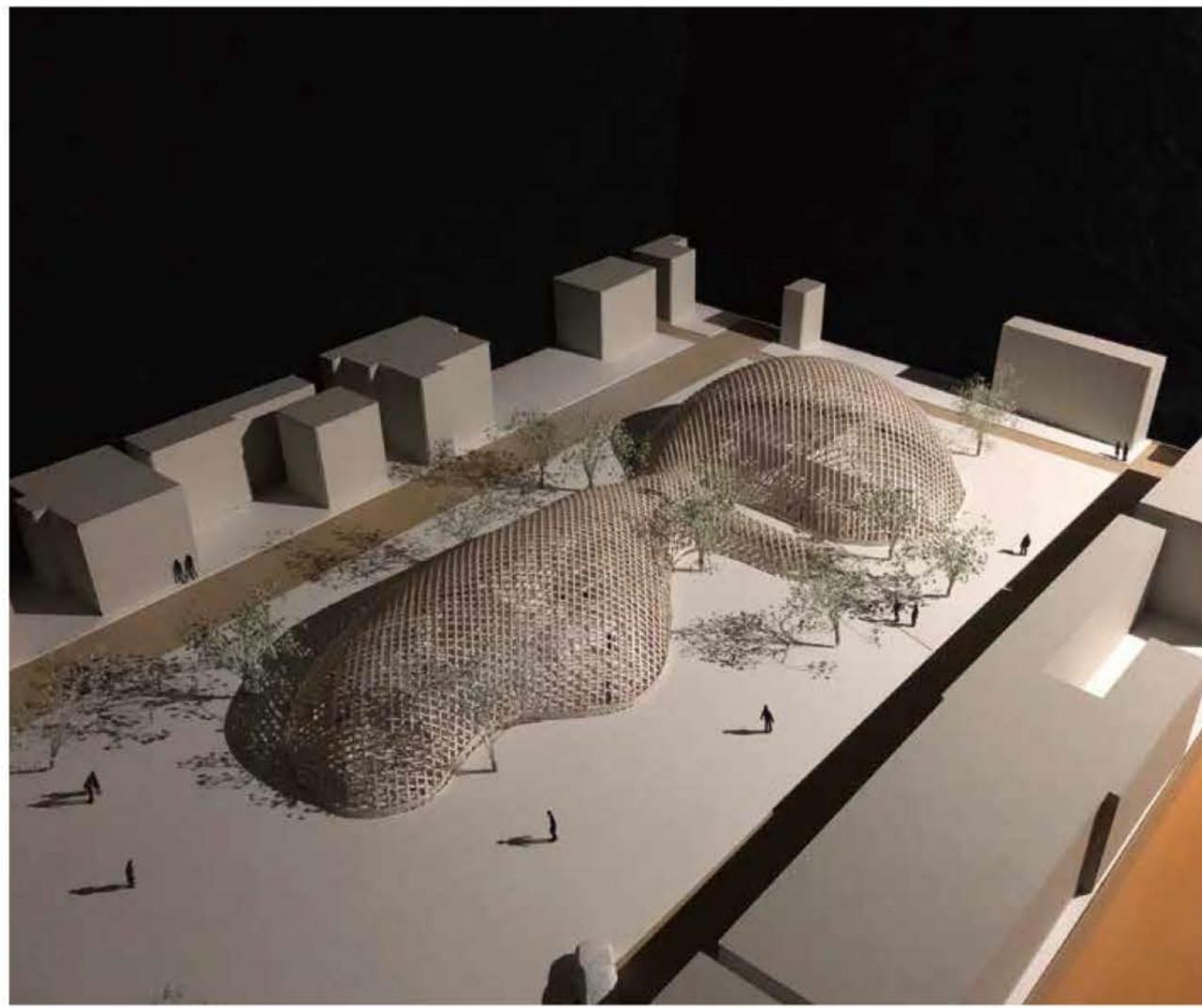
2. 暮らしや文化を共有するSHOW TENGAI

3. 建築から、文化や知識を分かち合う SENT TO YOU

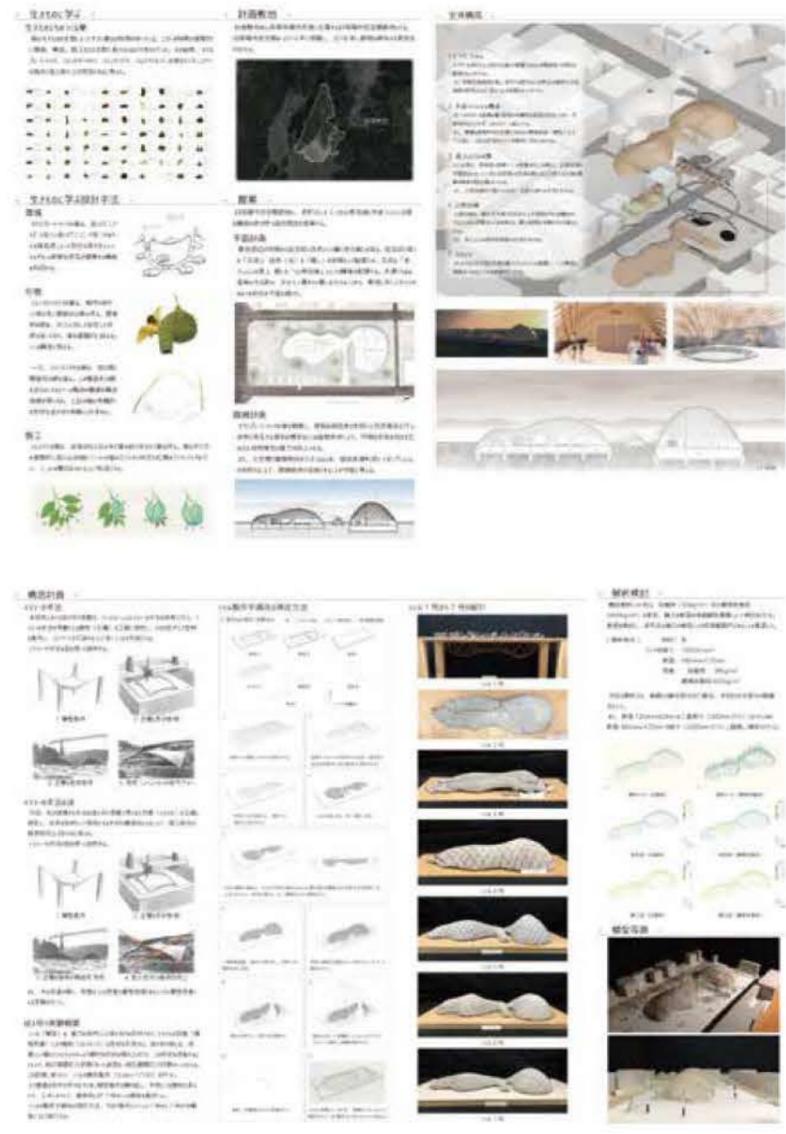
4. 街から学ぶための持続的な仕組み

5. 暮らしや文化を共有するSHOW TENGAI

6. 建築から、文化や知識を分かち合う SENT TO YOU



作品詳細



No. 3

穀野 直貴 かくの なおき
千葉工業大学 創造工学部 建築学科



JSCA賞



作品紹介はこちら

自然の“おもい”を形に

しぜんの“おもい”をかたちに
近年、世界では生物が有する機能や構造、形状の優れた点を模倣することで効率のいい進んだ技術(バイオミクリー)を生み出し、乗り物、軍事、暮らし、医療などの分野に生かされてきた。建築分野も生物から学ぶことが数多くあり、それらを模倣することでより良い建築を生み出すことができると考えた。
本研究は、生きものにとっての建築である「巣」に着目してバイオミクリーを利用し、山形県南陽市が旧南陽市民会館跡地に温浴施設を整備する計画案を元に、逆さ吊り実験による構造システムを用いた新しい温浴施設の提案を行う。



審査員 向後 勝弘

生きものの巣の形態にはそれぞれ合理性があり、それをモチーフにシェル構造という構造的に合理性のある形状を発想したことは、建物用途に対する形状の必然性には乏しいもの、おもしろさを感じる。また、その形状を実現するため、イスラーの懸垂曲面を利用したRCシェルの手法を取り入れ、さらに型枠として使用される木材を構造体として利用して軽量化を図るなど、合理的な考えである。さらに、最適な形状をつくり出すために、失敗しては模型を変えて製作を繰り返し、7体の模型を製作したことに敬意を表したい。

最後には、模型に対して自重と積雪荷重に対して構造解析を行い、断面検討し、変形と軸力に対して許容範囲内であるとの安全性確認を行なうなど、レベルの高さも伺える。ただ、安全確認をするのであれば、軽量化を図った建物に必須の風に対する検証にも触れてほしいが、構造解析の目的を曲げ応力の発生が微少で、模型の精度に対する検証に使うのも一つの手か。いずれにしても、着想から模型の製作、実験、解析に至る一連の研究成果は、完成度の高い作品となっている。





No. 1

大隅 峻 おおすみ りょう
千葉大学 工学部 都市環境システム学科



奨励賞

れきしをついそするさんどう

歴史を追想する参道

久能山東照宮へ誘う博物館の提案

2019年の文化財保護法改正により、地域総がかりで文化財の保存・活用に取り組むことが新たに定められた。しかし、実際に策定された市町村の地区計画は、本来の目的とかけ離れているのが現状である。本計画では、地域に根付く文化財保存活用のモデルケースとして、建築的な見地からの提案を行う。

舞台は静岡市、久能山東照宮。徳川家康を祀るこの場所で、老朽化した参道の代わりにの動線として機能する博物館施設を提案する。地域住民は、長い歴史の中で失った交流基盤を取り戻す。参拝者は歩を進めるにつれて俯瞰的に歴史を学び、文化財を次代に伝えることへの理解を深める。

博物館と東照宮で得た学びや経験は地元への愛着に変わり、いつまでも住みたいと思える街になるだろう。



作品紹介はこちら



審査員 柳田 富士雄

文化財保護法改正により文化財と地域の関わりを強め、「文化財の保存・活用に積極的に努める」事が定められた反面、実際はかけ離れているという現実に、作者の地元、静岡の久能山東照宮を挙げて、新たな建築的手法でその保存と再生を図った作品です。

文化財保存の現状への問題提起から地域分析、目的の設定から提案へと至るアプローチは、論理的で「確りした計画に裏付けられた、所謂、地に足の着いた提案」となっています。

山頂の東照宮へ、つづら折れの石段でアプローチする参道が、老朽化して参拝者の足を遠のさせる現状から、トンネル状のアクセス路となる博物館を土中に構築し、エレベーターによる垂直動線を咬ませて、山頂へと導く計画です。駿河湾と富士山とを結ぶ2つの軸線を設けて、遺跡及び石垣発掘現場と言う歴史的ポイントを表示空間でつなぎながらアプローチする手法は明快で、途中のノードに設けられた展望デッキや、光の間による明と暗のリズムも訪れる人に心地よいアプローチを体験させます。

また、継承される保存活用プログラムを考へて、地域と文化財との関わりを提案している事は、単に創って終わりの箱モノで無く、そこから紡がれる未来への提案と言う点で評価されます。

一方で、計画論的には、既存の参道と言う歴史的空間との関係を切ってしまった事はどうか?何か所々でシンクロするようなアイデアは無かったのかと言う疑問を生みました。また、全体としては顔きつても何か物足りなさを感じるのは、「地に足が付きすぎている」と言う事、論理的積み上げの結果としての提案に留まっている、そこからブレークスルーする様な何か「保存+α」を表現できたらと思います。

作者の現実への真摯な眼差しと解決への真面目な取り組み、提案能力を評価しつつ今後の飛躍に期待したいと思います。

作品詳細

01. 社会背景 西武文化財保護法改正

2019年の文化財保護法改正により、地域総がかりで文化財の保存・活用に取り組むことが新たに定められた。しかし、実際に策定された市町村の地区計画は、本来の目的とかけ離れているのが現状である。本計画では、地域に根付く文化財保存活用のモデルケースとして、建築的な見地からの提案を行う。

02. 地域分析 久能山東照宮の歴史

久能山東照宮は、徳川家康を祀るこの場所で、老朽化した参道の代わりにの動線として機能する博物館施設を提案する。地域住民は、長い歴史の中で失った交流基盤を取り戻す。参拝者は歩を進めるにつれて俯瞰的に歴史を学び、文化財を次代に伝えることへの理解を深める。

03. 計画目的 西武文化財保護法改正の趣意を踏襲して

遺跡が伝へる歴史と自然の歴史を巡り、静岡市民の歴史への愛着と文化財保存への参加を促す。長い時間をかけて垂直化した地域の交流基盤を再構築し、住民と観光客の両者が文化財を愛する。

04. 提案 参道と一帯の博物館施設

参道と一帯の博物館施設を提案する。地域住民は、長い歴史の中で失った交流基盤を取り戻す。参拝者は歩を進めるにつれて俯瞰的に歴史を学び、文化財を次代に伝えることへの理解を深める。

05. 計画の特徴

参道と一帯の博物館施設を提案する。地域住民は、長い歴史の中で失った交流基盤を取り戻す。参拝者は歩を進めるにつれて俯瞰的に歴史を学び、文化財を次代に伝えることへの理解を深める。

06. 計画ダイアグラム 見取りと断面

見取りと断面の計画ダイアグラムを示す。参道と一帯の博物館施設を提案する。地域住民は、長い歴史の中で失った交流基盤を取り戻す。参拝者は歩を進めるにつれて俯瞰的に歴史を学び、文化財を次代に伝えることへの理解を深める。

07. 構工法の検討 NATM工法の採用

NATM工法の採用を検討する。参道と一帯の博物館施設を提案する。地域住民は、長い歴史の中で失った交流基盤を取り戻す。参拝者は歩を進めるにつれて俯瞰的に歴史を学び、文化財を次代に伝えることへの理解を深める。

08. 何を学ぶのか 歴史を学ぶための空間

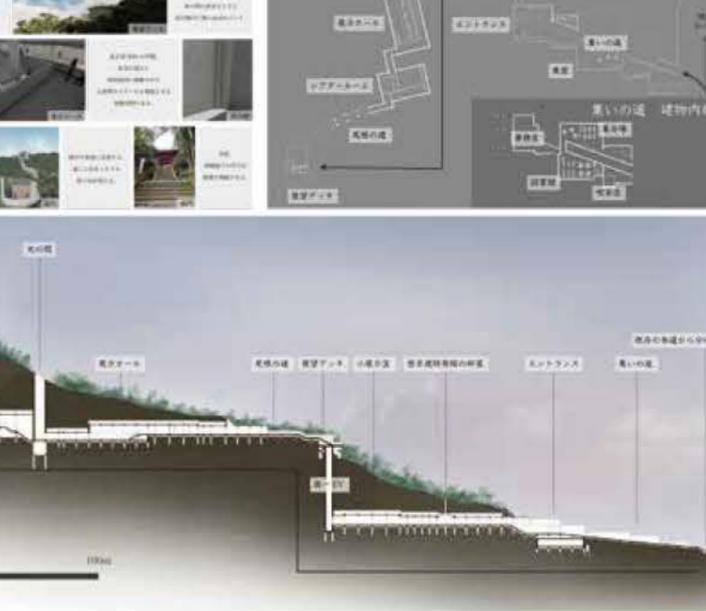
歴史を学ぶための空間を提案する。参道と一帯の博物館施設を提案する。地域住民は、長い歴史の中で失った交流基盤を取り戻す。参拝者は歩を進めるにつれて俯瞰的に歴史を学び、文化財を次代に伝えることへの理解を深める。

09. シーン 参道と博物館施設

参道と博物館施設のシーンを提案する。参道と一帯の博物館施設を提案する。地域住民は、長い歴史の中で失った交流基盤を取り戻す。参拝者は歩を進めるにつれて俯瞰的に歴史を学び、文化財を次代に伝えることへの理解を深める。

動線断面図

参道と博物館施設の動線断面図を示す。参道と一帯の博物館施設を提案する。地域住民は、長い歴史の中で失った交流基盤を取り戻す。参拝者は歩を進めるにつれて俯瞰的に歴史を学び、文化財を次代に伝えることへの理解を深める。



(展示/パブリックのサイン表記)



No. 4

大野 裕介 おおの ゆうすけ
東京理科大学 理工学部 建築学科



審査員 河内 一泰

歴史的な街を現代に引き継ぐにあたり、表層の模倣ではなく「想像的捏造」という独自のキーワードを持って設計をする姿勢に共感した。野田の歴史的な産業ネットワークをトレースしながら、転用していくことで都市遺産を現代的に活用するという「街のリノベーション」と言えるプロジェクトである。建築は使われ方が変わっても形が残る。一般的にリノベーションとは、建物の構造を生かしながら部分的に更新し、新しいプログラムに転用される事である。過去のプログラムの合理性で計画された構造と、新しいプログラムがずれる事で冗長性が生まれ、生き残った空間が発生する。本人が設計の中で「誤読」を積極的に作るうとした態度もリノベーションの面白さを的確に捉えている。建物単体だけでなく、街のスケールに対しても構造を見出し、顕在化させている点も良い。個人的には2つ目の「本蔵トンネル」が新築ではあるが、周辺の街を引用しながら3種類の空間が重なる風景に興味を持った。実際に内部に見える空間はどんなものか、ストーリーを知らなくても読得できる内観写真を見たいと思った。

奨励賞



作品紹介はこちら

のじょうかねつそう

野田醸下捏造

誤読可能建築によるネットワークの構築

多くの観光地は経済性を重要視した表層の模倣である。しかし、敷地である野田市のように、産業ネットワークに基づく都市遺産や、消失した遺産は経済性が認められずそのままでは地域の起爆剤となり得ない。そこで、表層の模倣ではなく、土地の持つコンテクストによって何ともない構築物が当時の構築物に誤読される「創造的捏造」を基に、土地が失った意味を再規定する建築群を提案。建築群は既存の地域資源とプログラムやインフラを通してセミラティスな関係を結び、訪れた人々によって新たな空間を創出する。また、コンテクストと建築群をすり合わせることで訪れた人々ごとに異なる解釈を生むことが新たな都市の楽しみ方となる。



作品詳細



01. 街脈を継ぎ 創出する遺産と活かす遺産

02. 敷地 キャンパースの企業城下町 野田

03. 提案 未来・コミュニティに基づく「創造的捏造」

04. 建築計画

05. 建築計画

06. 建築計画

07. 建築計画

08. 建築計画

09. 建築計画

10. 建築計画

11. 建築計画

12. 建築計画

13. 建築計画

14. 建築計画

15. 建築計画

16. 建築計画

17. 建築計画

18. 建築計画

19. 建築計画

20. 建築計画

21. 建築計画

22. 建築計画

23. 建築計画

24. 建築計画

25. 建築計画

26. 建築計画

27. 建築計画

28. 建築計画

29. 建築計画

30. 建築計画

31. 建築計画

32. 建築計画

33. 建築計画

34. 建築計画

35. 建築計画

36. 建築計画

37. 建築計画

38. 建築計画

39. 建築計画

40. 建築計画

41. 建築計画

42. 建築計画

43. 建築計画

44. 建築計画

45. 建築計画

46. 建築計画

47. 建築計画

48. 建築計画

49. 建築計画

50. 建築計画

51. 建築計画

52. 建築計画

53. 建築計画

54. 建築計画

55. 建築計画

56. 建築計画

57. 建築計画

58. 建築計画

59. 建築計画

60. 建築計画

61. 建築計画

62. 建築計画

63. 建築計画

64. 建築計画

65. 建築計画

66. 建築計画

67. 建築計画

68. 建築計画

69. 建築計画

70. 建築計画

71. 建築計画

72. 建築計画

73. 建築計画

74. 建築計画

75. 建築計画

76. 建築計画

77. 建築計画

78. 建築計画

79. 建築計画

80. 建築計画

81. 建築計画

82. 建築計画

83. 建築計画

84. 建築計画

85. 建築計画

86. 建築計画

87. 建築計画

88. 建築計画

89. 建築計画

90. 建築計画

91. 建築計画

92. 建築計画

93. 建築計画

94. 建築計画

95. 建築計画

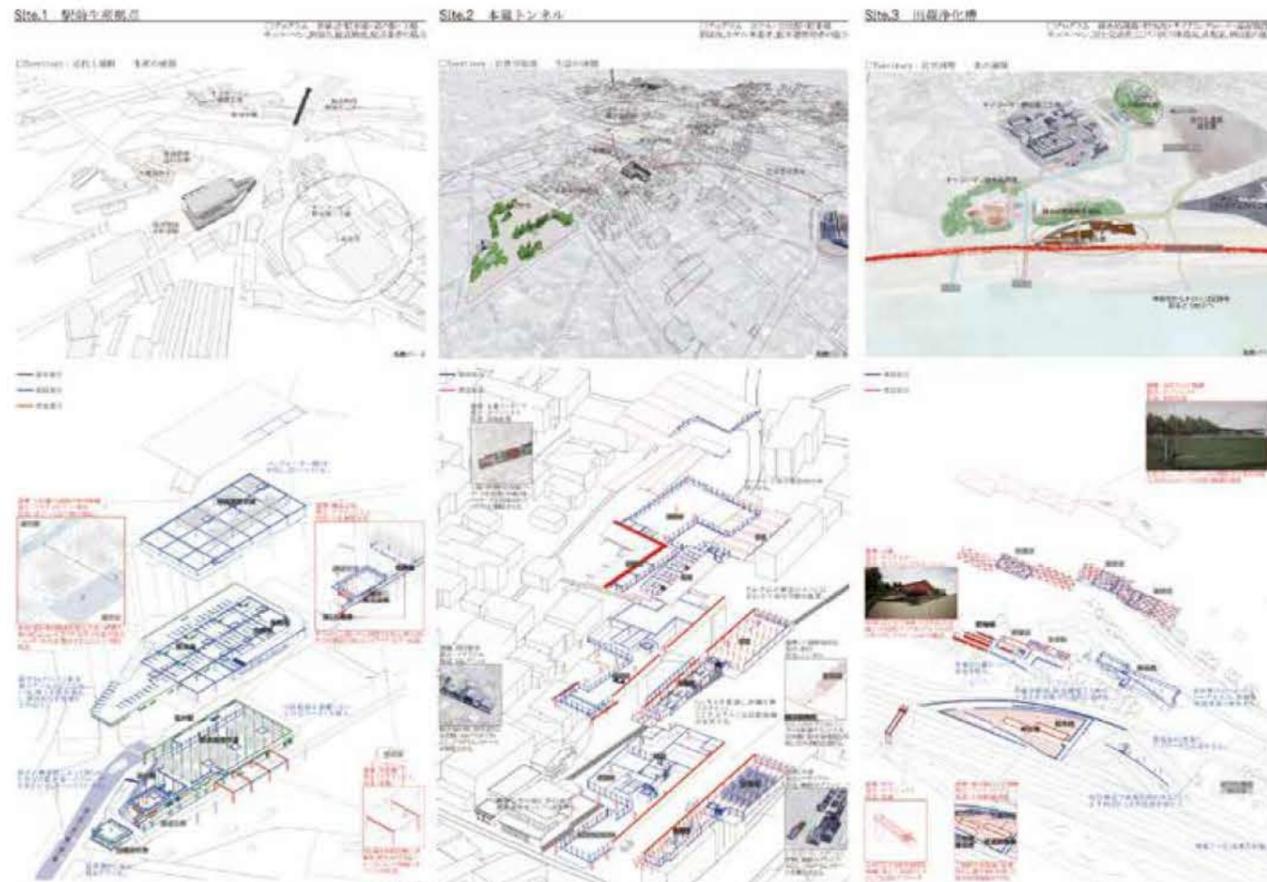
96. 建築計画

97. 建築計画

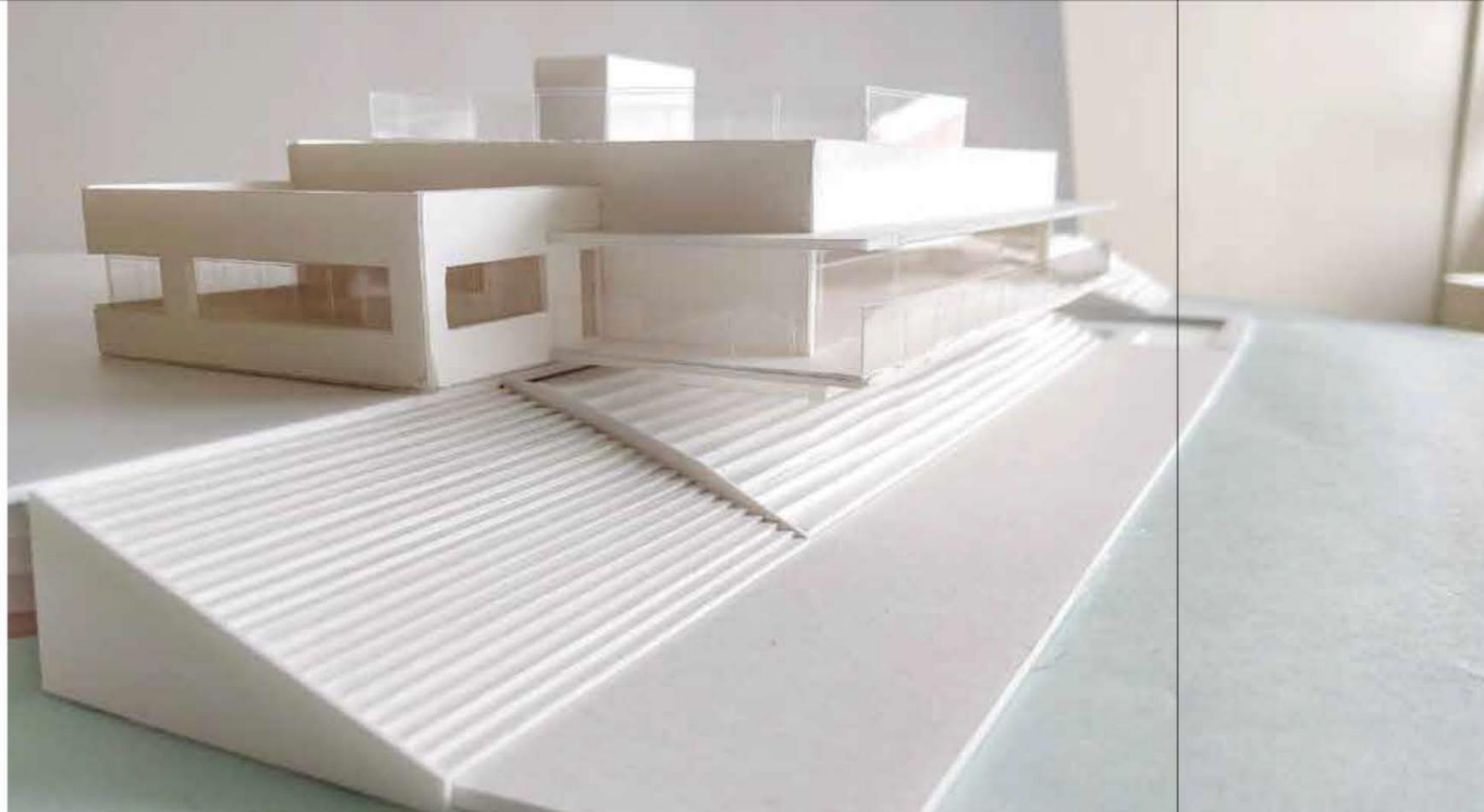
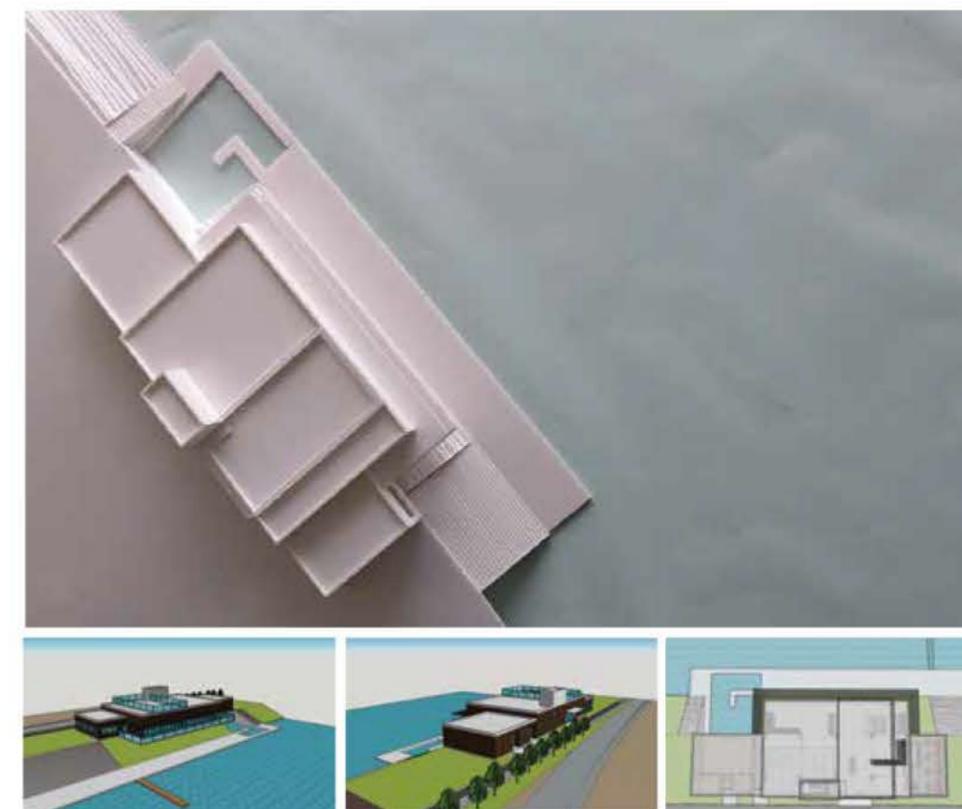
98. 建築計画

99. 建築計画

100. 建築計画



作品詳細



No.6

飯塚 駿輝 いづか としき
千葉職業能力開発短期大学 住居環境科



審査員 牧野嶋 彩子

奨励賞

よみがえれいんばぬま

よみがえれ印旛沼

汚すのは簡単。どうすれば綺麗になるのか過去を学び考える資料館



作品紹介はこちら

私は、印西市と合併する前の印旛村のあった地域に住んでいます。特に私の住む地域は360度印旛沼とその水路に囲われており陸の孤島と呼ばれています。小学生の頃は、よく田んぼや用水路でザリガニ取りや茂みに隠れ家を作って遊んでいました。私にとって印旛沼は身近なもので親しみ深いものでもあります。近くで遊んでいると、不法投棄の山や油が浮いた水の光景をよく見っていました。

ある時曾祖母が昔の印旛沼の風景について話してくれました。水は底が透き通るほど綺麗で沸かせばその場で飲めるほどで、日常的に子供が泳いで遊んでいたそうです。その話を聞いたとき、今まで汚れた沼しか見たことがなかった私は夢の話をしているかのような現実味が全くありませんでした。その話をもとにインターネットで昔の写真を調べてみたとき自分が生きていく間に、もう一度泳いで遊んでいる風景を取り戻したいと思いこの計画としました。

よみがえれ印旛沼

汚すのは簡単。どうすれば綺麗になるのか過去を学び考える

自然破壊の歯止めが全世界的にきかない今、人々の生活に密接にかかわってきた印旛沼の環境改善に対する施設はとて価値があると言える。特に水辺に対して日本人は背を向けた開発をしてきたが、昔の生活には水辺は大切な輸送や交通、生活の場であった。

「よみがえれ印旛沼」では印旛沼周辺に住む人々の生活を支えてきた印旛沼をよみがえらせるための施設を印旛沼のほとりに建設し、この施設を訪れた人々の意識の改革をも担う、中身のある施設の提案がなされている。

この作品を拝見した際に、建設地の選定がとてもいいと感じた。すでに人々を集客できる風車や花火大会が行われる佐倉市にある場所の近くで、人々が訪れやすい場所である。

建物デザインに関しては、ポर्टハウスをイメージした平家で周辺の風景に溶け込むように外壁を木張りとしている。エントランスに入ると目の前に印旛沼の風景が広がりが気持ちのいい空間が広がる。そこが人々の意識を変える資料館であるメインギャラリーとなり、ギャラリーから外にでるとより印旛沼の自然を感じられるバルコニー、親水空間が広がる。建物の形状だけでなく浄水設備もしっかりと設計されており、建物があることで沼を汚すのではなく水を浄化できることは大きな意味がある。

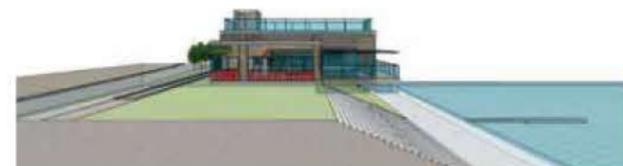
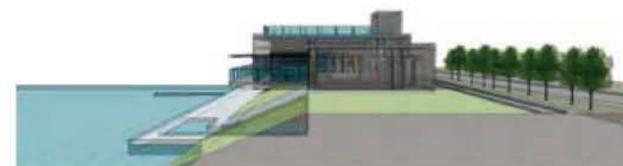
この施設を訪れた人の意識がかわり、沼を綺麗にすることができる施設は必要な施設だといえる。

よみがえれ印旛沼

汚すのは簡単。どうすれば綺麗になるのか過去を学び考える



印旛地域の生活を支えた水路、印旛沼。誰もが知る印旛沼のイメージ通り、水質の悪さは全国ワースト1位である。しかし今からおよそ60年前、昭和30年代以前の印旛沼は、視が透き通って見えるほど水が澄み、夏には子供たちが泳いで遊んだほど美しく豊かな沼だった。水質の悪化は、臭いや見た目だけが悪くなるわけではない。人が泳ぎにくくなることでゴミの不法投棄や外来種が成長し生態系を破壊する問題も発生している。印旛沼に関わる人々の注意を喚起改変に呼ぶ意識変化のきっかけを契機で作ることはできないだろうか。





No. 8

高橋 玲央 たかはし れお
千葉工業大学 創造工学部 デザイン科学科



奨励賞



作品紹介はこちら

「かっこ」
「かっこ」

近隣コミュニティにおけるコミュニケーション促進のための空間的提案

高齢化やデジタル化が進む現代では、人と対面する機会が減り、孤独死や災害時の連絡体制の不備が問題になっている。本研究では、これらを解決するため、ご近所付き合いを誘発する新たな空間提案を行うことを目的に設定した。

実空間から、人の居方や集まり方・空間構成の調査を行い、分析結果から、視線や動線を意識して隙間空間の使われ方を重点的に検討を行った。

これらの研究によって作り上げられたこの空間には、境界線や凹凸などの人が自然と集う要素に加え、コミュニケーションを促進するきっかけが集められており、この空間を通して世代間を超えたコミュニケーションの輪が広がる。



審査員 河原 泰

コミュニティセンターにおける部屋のボリュームを傾けたり、ずらしたりすることにより、視線が抜け、人の気配が感じられる交錯軸を生み出し、コミュニケーションを促進するという試みはよいと思う。昭和の映画やアニメに見られるような「ご近所付き合い」に匹敵する濃いコミュニケーションを生み出すためには、空間の隙間やレベル差により生まれる面白そうな空間を、より積極的に活かすオリジナルな使い方のアイデアが提案できるとさらに良いと思った。

作品詳細



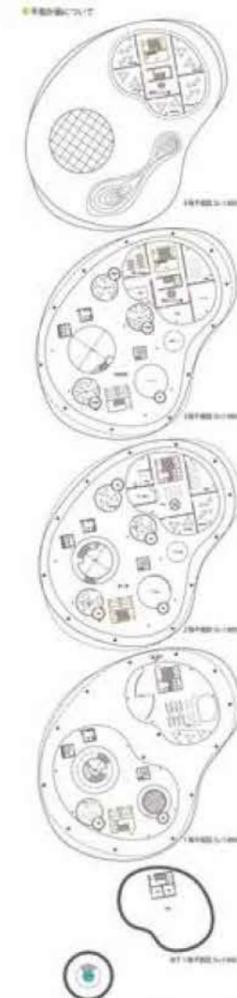
近隣コミュニティにおける
コミュニケーション促進のための空間的提案

01. 背景

02. コミュニケーション促進策の検討

03. 空間分析

04. space



No. 11

藤井 朋美 ふじい ともみ
日本大学 短期大学部 建築・生活デザイン学科



奨励賞



作品紹介はこちら

あそびーんず

ASO beans

浦和駅前の子どものためのアソビ空間

少子化が社会問題になっているが、その原因のひとつとして仕事と子育ての両立の難しさが挙げられる。

保育園に入ることができても乳幼児期には体調を崩すことが多く、病児保育がないと仕事を急に休まなくてはならない。また、小学校に入れば保育園の時より仕事しやすくなるのではないかと思いがちだが、実査はむしろ逆である。夕方まで預かってくれる保育園とは違い、小学生の下校時間は早く、「小1の壁」と呼ばれるものが存在する。そして何よりも大変なのは子どもが保育園児と小学生の場合である。夕方のお迎え時、仕事で疲れた体にムチ打ち、あちこち奔走することになるのだ。

この現実を解決するために、私は0歳～12歳を対象とした「駅近子ども複合施設」を提案する。



審査員 飯沼 竹一

現代の日本社会に即したとても良い着想の計画で、ターミナル駅前にこんな施設があれば父母たちも安心でき、子供たちも楽しくのびのびと遊び学ぶことができるだろう。

この様な子供のための施設は直接子供を預ける保護者だけでなく、社会にとっても必要なものであろう。保育園や子供ルームには様々な問題があるが、その中でも子どもが病気の時に預け先が無いとか、兄弟の預け先が複数ある場合の送迎の大変さなど現代の子育て事情を良く調べてあり、その解決策の一つとして0歳から12歳を対象とした「駅近子ども複合施設」というプログラムをつくりだした。

3階フロアとJR高架のレベルを合わせて電車の通過の様子が見えるアイデアは、子供たちに楽しいプレゼントになるだろう。曲線をまとった外皮とカーブの間仕切壁に囲まれた空間も魅力的で、どこか実現可能なプロジェクトに思える。

「ジャックと豆の木」の引用や「光の泉」という地下に設けたこの建築のヘソの部分について、もう少し物語性を持たせるなどして分かり易く説明できれば、更に説得力のある建築計画になったと思う。

しかしながら、この卒業設計が短大2年生の製作であることを審査後に知り、4年生に負けていないこの設計力に期待したいと思った。次のステージでの活躍が楽しみである。

作品詳細



3 断面計画について
基地の内部には多用途施設・高層ビル・学童館等の上下層にわたる多層階がある。この高層の裏には約90mあり、また、子どもは電車好きで電車が大好きなことから、今回の計画では、沿線にある高層をマイナスと捉えて取り除くのではなく、プラスと捉えて積極的に取り入れるように構成した。建物の階のフロアと高架の階を一致させ、電車が通りゆく風景を裏から観望することができ、



1 目的意識
少子化が社会問題になっている。その原因のひとつとして仕事と子育ての両立の難しさが挙げられる。保育園に入ることができても乳幼児期には体調を崩すことが多く、病児保育がないと仕事を急に休まなくてはならない。また、小学校に入れば保育園の時より仕事しやすくなるのではないかと思いがちだが、実査はむしろ逆である。夕方まで預かってくれる保育園とは違い、小学生の下校時間は早く、「小1の壁」と呼ばれるものが存在する。そして何よりも大変なのは子どもが保育園児と小学生の場合である。夕方のお迎え時、仕事で疲れた体にムチ打ち、あちこち奔走することになるのだ。

2 シンボル的な意図について
「ジャックと豆の木」の引用や「光の泉」という地下に設けたこの建築のヘソの部分について、もう少し物語性を持たせるなどして分かり易く説明できれば、更に説得力のある建築計画になったと思う。

3 断面計画について
基地の内部には多用途施設・高層ビル・学童館等の上下層にわたる多層階がある。この高層の裏には約90mあり、また、子どもは電車好きで電車が大好きなことから、今回の計画では、沿線にある高層をマイナスと捉えて取り除くのではなく、プラスと捉えて積極的に取り入れるように構成した。建物の階のフロアと高架の階を一致させ、電車が通りゆく風景を裏から観望することができ、

4 4F
4F 児童館・学童館

3F
3F 保育園・認定こども園

2F
2F 若い人・小売店・飲食店

1F
1F 多目的ホール・多目的ホール

地下
地下 若い人・小売店・飲食店

地下
地下 若い人・小売店・飲食店

地下
地下 若い人・小売店・飲食店



No. 13

西村 寿々美 にしむら すずみ
日本大学 理工学部 海洋建築工学科



奨励賞

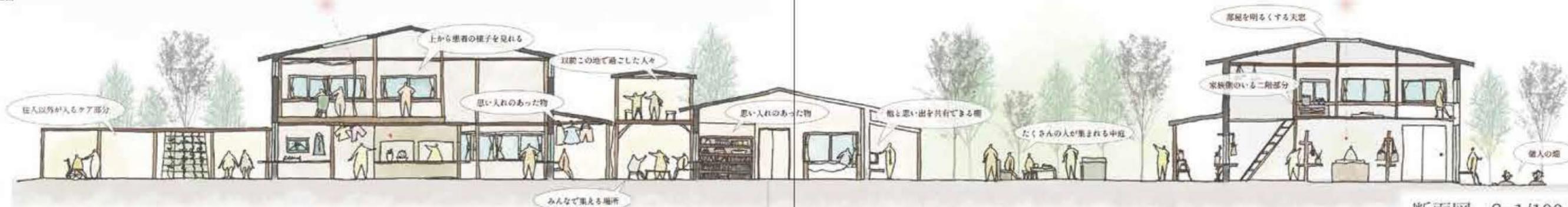
わたしがあなたにおくるもの

私があなたに贈るもの

人生の最期を迎える場所

2018年8月17日、私の祖父は亡くなった。死因は膀胱癌。病気が発覚してから約3ヶ月という短い間であったが、衰弱していく祖父を見ながら別れの言葉や感謝の気持ちを伝えることは難しかった。今、病院で死を待つ人たちが多く存在し、孤独に亡くなっていく人や「死」という存在は隠すものになっていく。「死」というものが「見たくない」、「考えたくない」、「悲しいものだ」という当たり前から「自分もこのように死んでいきたい」、「もっと家族との時間を大切にしよう」と思うきっかけをつくる。本提案では、病院の一角や、介護施設ではない、家族や大切な人と人生の最期を過ごすための場所を提案する。

断面図



断面図 S=1/100

(展示パネルでのサイズ表記)

作品詳細



2018年8月17日、私の祖父は亡くなった。日々続く入院生活、痛みに耐えながら寝続けるしかない時間、その姿を毎日みてきた。家に帰りたと思って帰ることはできなかった。その体験を踏まえて、今を生きるすべての人に起きる死を明るく、素敵なお別れに変える建築を提案する。

101 最期を迎える時

102 アンケート

103 社会的背景

104 選択肢を増やす

105 看取る人の多さから配置を考える

106 計画敷地 一丁南西角区画



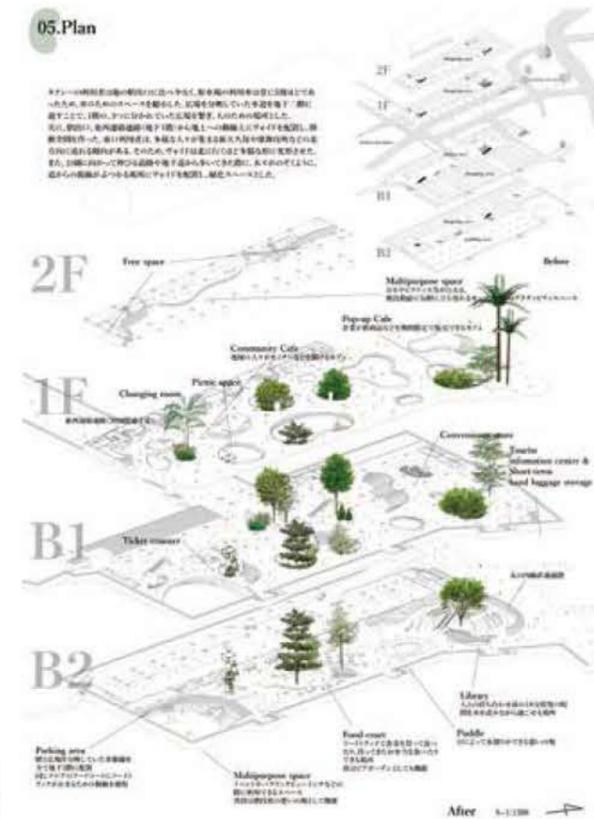
no.13/21



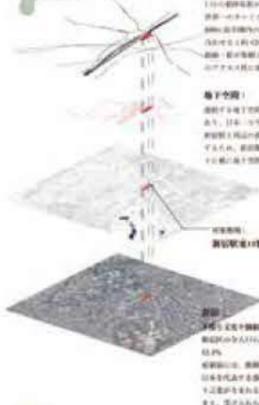
作品詳細



05. Plan



01. Site



02. Background



03. Proposal



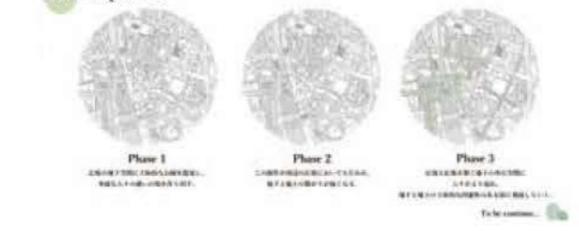
04. Diagram



06. Details



07. Perspective



No. 14

黒石 ゆうか くらいし ゆうか
千葉大学 工学部 建築学科



審査員 河内 一泰

奨励賞



作品紹介はこちら

としのふもとでせきそうるこうえん

都市の麓で積層する公園

グラウンドレベルにおいて公園や広場を作る余地のない新宿。それに対して、新宿の日本一広い地下空間は、車のない歩行者のみの空間であり公園や広場を作るには最適だと考えられる。新宿駅東口駅前広場の地下の商業施設として使われている空間は、今後、洋服店などがネットショッピング主流となり、リアル店舗はショールーミング化することで、縮小すると想定できる。新宿の地下街の中心部であるこの場所を地上と地下2層を合わせた立体的な広場・公園空間に転用することで、新宿を訪れる多様な人々の憩いの場とする。2020年のオリンピックイヤーを迎え、様々な場面で多様性が求められる今、日本で最も多様な人々が行き交うこの場所において、全ての人にとって快適な場を提案する。

都市の建物において床が積層するように、公園も積層できないかという大胆な仮説を試みたプロジェクトである。巨大な地下空間を有する新宿駅東口広場を敷地として、地上と地下のつながりと回遊性をつくらうとする方向性は共感できる。不定形の穴が地下の動線を考慮して配置されている点や、雨が落ちる場所を水たまりとしている点など平面計画としても工夫が見られる。また穴の縁が下の階へ面的に連続するなど断面的にも考えられており、設計の密度として十分に評価できる作品だと思う。

しかし、公園が積層する空間は建物の床が積層する空間とは何が違うのか?という所がこの作品の要なのだが、提出された形はショッピングモールのようにも見えなくもない、穴のサイズが小さすぎるせいなのか、階高やフラットな床が既存の地下の断面と似ているからなのか。

建物と公園のグラデーションの中で、我々が知らない積層する公園のかたちとはどんなものか?ということをもっと見てみたいという期待を持たせる作品である。



No. 15

長坂 美空 ながさか みく

日本大学 短期大学部 建築・生活デザイン学科



奨励賞

だんちさいせい

団地彩生

農園×シニア=常盤平団地リノベーション計画

農作物をつくる、販売する場を団地に組み込むことで、高齢者たちが生き生きと暮らせる場を広げていきたい。そんな願いのもと、小さな建築的な提案として団地のリノベーション計画を試みた。

千葉県松戸市の常盤平団地は、1960年代初頭に建設された4,800戸以上を有する大規模団地であり、高齢者の孤独死が問題となっている。広い団地の戸外へと高齢者が自然と出て、コミュニケーションをとれること。日常的で具体的な生産活動となること。その最適な手段として、菜園に着目した。

リノベーションするために、基本となるユニットをつくり、反映していく手法を用いた。既存住棟に付属していく形で、住棟間の広いスペースの間に畑を取り入れた建物を増設する農園ユニット、2つの住棟を段々状に減築して繋げる店舗ユニットの2つを団地全体に配置する設計とした。



作品紹介はこちら



審査員 牧野嶋 彩子

社会的に空き家の増加が問題になっている。多くの住戸数がある団地の空き家化や高齢化など難しい問題に取り組んだ意義のある提案である。

1961年建設の常盤平団地は空室率は4%とまだ少ないが、高齢化が進み今後10年後の姿は今とは全く違ったものとなるだろう。団地の課題を農園と店舗というユニットを作り出す事によって解決を試みている。

現代人の暮らしは土から離れてしまったと言われるが、人は土に触れると心が落ち着きうつ病の治療には農業を取り入れている施設もあるそうだ。土に触れる事は、どんな人でも元気になる効果があると思う。

既存の住戸の間に農園ユニットを建設してその農園を団地のみんなで管理をしていく。農園は太陽のあたり方を考慮して棚田のように、段々になっている。店舗ユニットは建物形状に圧迫感がないように減築を試みている。建物の空間構成は実現できたら面白い空間となるだろう。

如果说、農園を維持管理する「しくみ」まで踏み込んだ提案があったり、店舗と農園ができる事で周辺地域にどんな影響を与えるかなどの提案があればより説得力のある団地再生となったと思う。

ただ、4823戸というスケールの大きな団地再生に対する提案としては広い視野をもつ良い提案だといえる。

1. 背景

常盤平団地は、建設当初は人であふれ、活気ある場所だった。しかし、60年近くたった現在では居住者の半数以上が高齢者となり、現代の近所付き合いの減少も相まって活気がなくなってきた。その中でも特に問題となっているのが孤独死と街全体の衰退だ。

こうした問題を団地の中に農園をつくることによって居住者たちが積極的に外に出て、交流を増やすことで活気を取り戻す団地再生を提案する。

2. 敷地

常盤平団地は1961年に日本住宅公団によって千葉県松戸市に建てられた総住戸数4823戸の巨大団地である。緑が多いことが特徴で、近隣には市役所支所、図書館分館、広い公園や小中学校が団地を囲むように点在している。建設当初は人であふれ、活気ある場所だった。

現在でも空室率約4%と人気の高い団地であるということも変わらないが、居住者の高齢化率が過半数を超えている。団地内の高齢化が進むことで孤独死が問題となっている。また、団地の老朽化や、近隣を含めた衰退が見られる。



3. 設計方針、方法

全体的なリノベーション方針として、団地で場生活動や交流を行える場をつくること。現在の団地に足りないエレベーターなどによるバリアフリー化を行うことの2点を意識した設計とした。

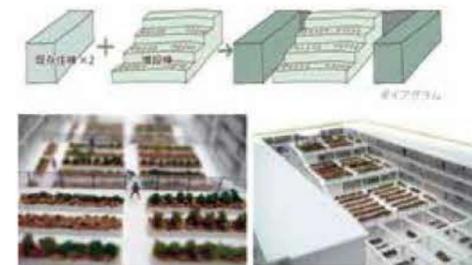
方法として生産活動と交流が行える農園ユニット、団地内外の交流を意識した店舗ユニットの2種類のユニットをつくることで団地全体を活性化していく。どのユニットも2棟1セットを原則とし、2棟を繋ぐ通路や増設棟などにエレベーターや階段といった昇降設備を備える。

また、本計画において既存住棟のモデルは下記のものを使用する。



4-1. 各種ユニット説明-農園ユニット-

住人に気軽に畑によってもらうために、住棟間に畑を取り込んだ増設棟を設け通路で繋ぐ。屋外では気候に則した植物を、屋内では天気や気にせず手軽に植物を育てることができる。



4-2. 各種ユニット説明-店舗ユニット-

既存住棟を道路面から階段状に減築し、2棟をエレベーターと階段と共に連絡通路で繋げる。こうすることで地域に対して団地の表情を出すことができ、活気をもたらす。





No. 17

藤原 裕子 ふじわら ゆうこ
千葉大学 工学部 都市環境システム学科



奨励賞

うめのかかおるまなびや

梅の香かおる学び舎

借楽園再生計画

近年、社会から孤立した不登校児童が増加している。その受け皿は十分とは言えず学校に代わる子どもの居場所が求められている。近代の学校制度が整備される以前、水戸藩の藩校には借楽園が附属しており、文武で疲れた心身を癒す役割を担っていた。この思想に着想を得て、誰もが自由に学ぶことができる新たな「学び舎」を提案する。借楽園外にフリースクールと生涯学習センターを、そして園内に特別教室を配置し、これらを「学びの道」でつなぐ。ここでは生徒が市民と共に学び、両者はゆるく関わり合う。陰の竹林から陽の梅林へと学びの道を歩けば視界が開け、静から動へ自然と前向きな気持ちになれる。これにより借楽園は学校に代わる現代の教育の場として生まれ変わる。



作品紹介はこちら



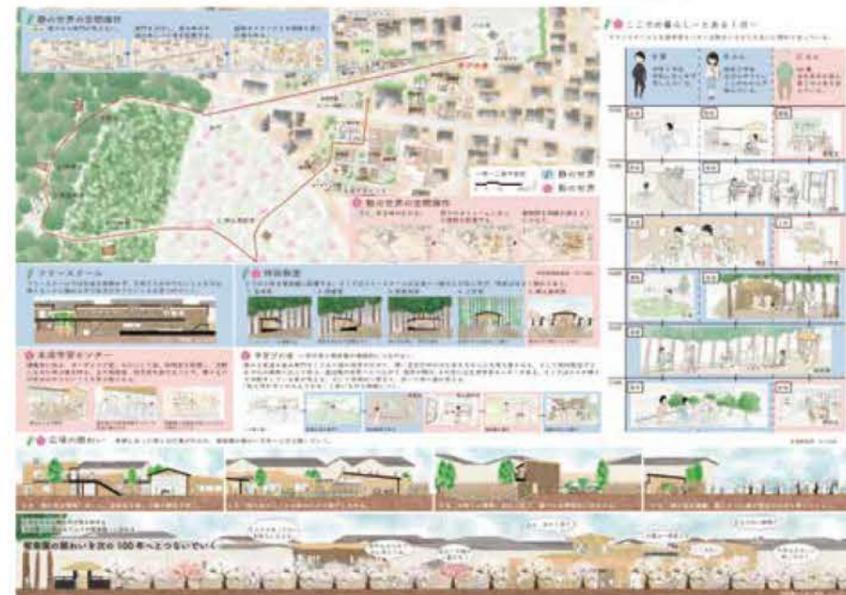
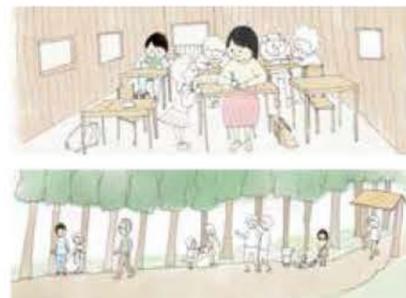
審査員 飯沼 竹一

マンガに味があっても面白い。思わず笑顔になるプレゼンテーションが目を引く作品である。しかしながら、計画の中心は学校や社会からはぐれてしまったであろう不登校児童の受け皿としての学び舎を水戸借楽園につくる提案である。

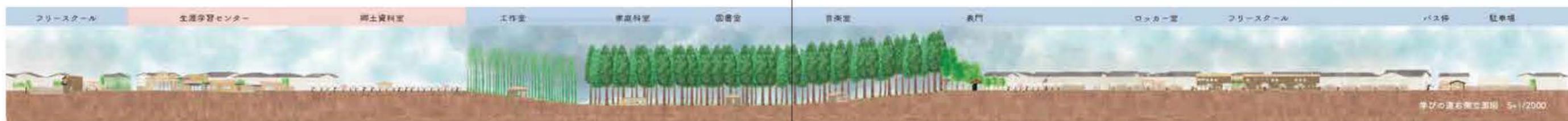
園外に中心施設となるフリースクールと生涯学習センターを計画し、園内には生徒と市民と一緒に学ぶことができる工作室や音楽室などの特別教室「学び舎」を分散させて配置。そしてこの「学び舎」と中心施設を結ぶ遊歩道を「学びの道」としてつくり、生徒が市民と気軽に交わることや、竹林、梅林を歩くことで気持ちを和ませ、自然の有り様や社会の成り様を理解していくという新しい教育の場を計画している。もともと借楽園は、水戸藩の藩校である弘道館であったことは広く知られているが、歴史的な脈も整理されていないなかなか説得力もある。

ただ、この計画の中心となる「学びの道」には、もう少し「道」として建築的な演出が欲しかった。

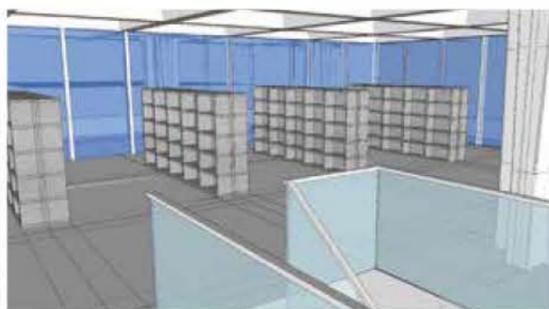
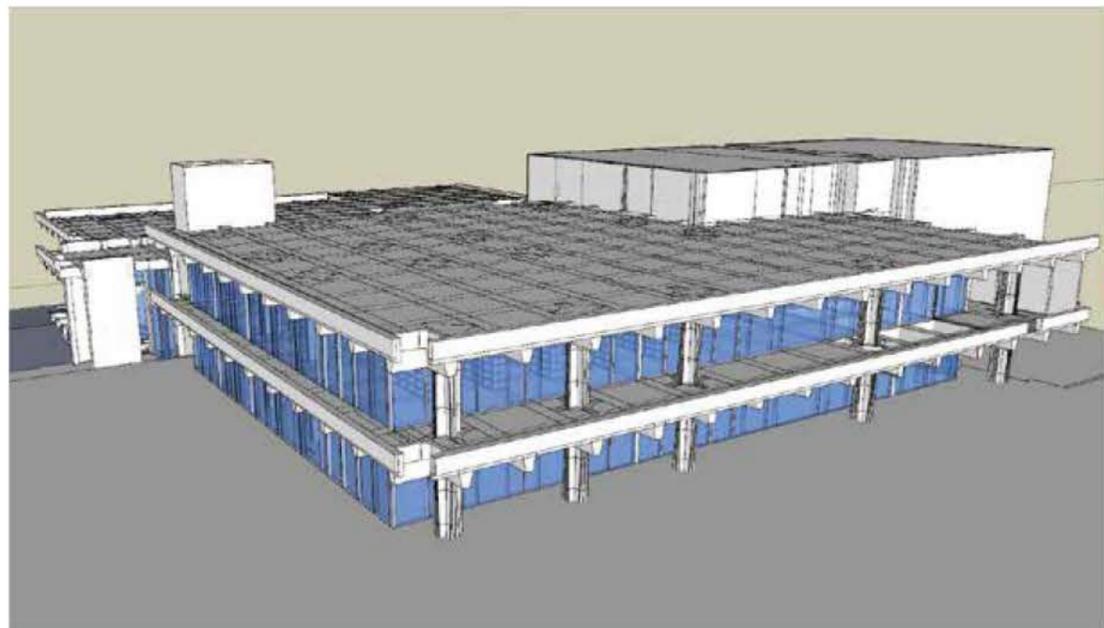
それでも、藩校と言う本来の役割が終わっている借楽園を題材に、不登校児童のフリースクールを提案するという発想力を高く評価する。またプレゼンにも表れている作者の優しさをもち続け、社会に貢献しながら成長していくことを願う。



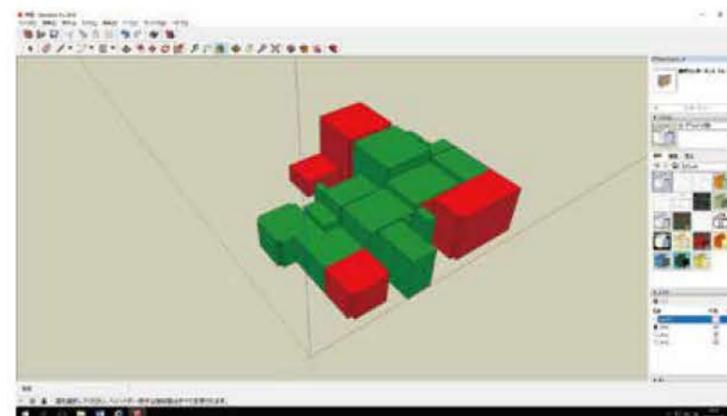
作品詳細



(展示パネルでのサイズ表記)



作品詳細



No. 18

小島 海月 こじま みつき
千葉職業能力開発短期大学校 住居環境科



奨励賞

ぐりっと・さんど

グリッド・サンド

千葉県立中央図書館 増築計画



作品紹介はこちら

現在、千葉県立図書館全体の蔵書所有割合は許容量の約90%に達し、新たに分館の建設が計画されている。しかし、地域においてなくてはならない存在として根付いていることから、今後も増える本や建物の耐震性能、景観の維持を考慮し、図書館の活性化のために千葉県立中央図書館の増築計画を提案する。計画は、既存の「プレグリッド・システム」の基本ユニットの仕組みを使うことで現在の構造を引き継ぎ、増築部分を連結させる。

増築を前提に考えられた仕組みであるメタポリズムの思想から生まれた、『プレグリッド・システム』を活用した提案により、現在の構造を引き継ぐ。デザインを大幅に変えることなく、既存の図書館と融合させることで現在の場所で存続させることが可能になる。同時に根本の問題である蔵書の許容量や耐震性能の改善を提案する。

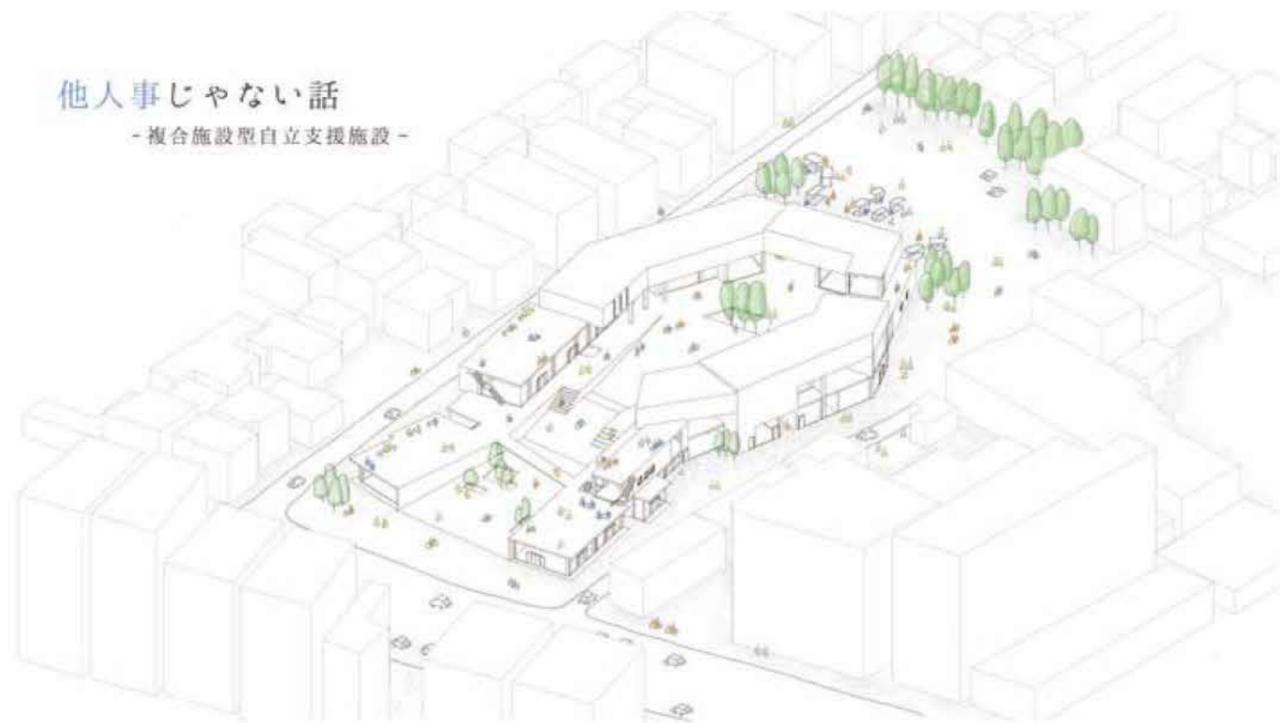


審査員 向後 勝弘

この作品を見たとき、日本建築学会が提言している千葉県立中央図書館の保存活動を連想した。しかし、作者は千葉県が計画している新千葉県立図書館の建設を知り、地域に根付いた現在の図書館と周辺地域の景観を残すため、図書館の保存を提案している。DOCOMOMO JAPANにも選定されている歴史的価値のある建物の保存をテーマに取り上げたことに、頼もしさを感じる。最初に移転の原因となった蔵書の増加と耐震性能の不足を調査し、その解消方法として増築による保存を提案している。プレグリッド・システムを活用して現在の構造を引き継ぎ、増築部によって耐震性能も向上させるという合理的な発想は、実務者ではなかなか考えつかない大胆な発想である。耐震壁の配置や、地盤力の伝達方法など課題はあるものの、現在の建築技術を持ってすれば、あながち不可能ともいえない。歴史的建物の保存を検討するとき、建築家の設計意図を理解し、そのデザインにいかに残すかに腐心するが、作品の増築部分を全面ガラス張りの近代的なファサードに決めたことに対して、プレグリッド・システムの構造を引き継ぐのと同様、大高真人のデザインについても、もう少し議論を深め、理解を得れば、増築計画がより現実性を帯びてくるのではないかと。

他人事じゃない話

- 複合施設型自立支援施設 -



No. 20

仲山 千文 なかやま ちふみ
東京電機大学 未来科学部 建築学科



奨励賞



たにんごとじゃないはなし

他人事じゃない話

複合施設型自立支援施設

設計趣旨

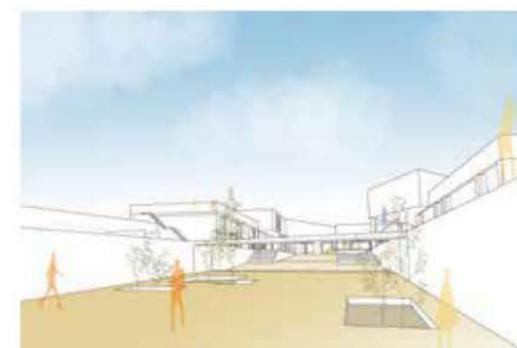
上京した時から日に日に増す違和感。
“ホームレスが無いものとして過ごされていること”
それは行き交う人からしたら当たり前だった。
「怠け者・欲に身を滅ぼした者」ホームレスと聞いてイメージする事はほぼこういった類い
だろう。しかし、彼らの背景は多様化しており一括りにはできない。彼らの中には、近々まで
社会で働いていた人も多く、そして、ホームレスはいつ誰か陥ってもおかしくないものだ。
何かのきっかけで路上生活に陥ってしまった方をターゲットに、再び自分の思う生活を送れるよう。
路上生活を長期化させない、彼らが失った物(衣食住・home・house等)への
リハビリをしつつ、居場所となるセーフティネットを計画する。
これは未来の私のための計画でもある。

作品詳細



審査員 田村 裕希

東京都新宿区大久保に計画されたホームレスのための施設の計画である。近年ホームレスの数は減少する一方で、ホームレスになってしまう背景が多様化することで、社会への復帰が困難になっている現状に着目し、リハビリをしつつ、居場所となるセーフティネットの提供が計画されている。人と再びつなげスキルを身につけることで再び社会に復帰する道筋が丁寧な平面計画とともにプレゼンテーションされている。



断面図



No.21

大野 めぐみ おおの めぐみ
千葉大学 工学部 建築学科



奨励賞

ほうめいのまち
亡命の町



作品紹介はこちら

私は建築に救われたかった

言葉で殴られると、自分の存在をたびたび見失う。

あの時、
なぜ 扉は閉まったままでいてくれなかったのだろう。
なぜ 壁はあの声を通してしまったのだろう。
なぜ この部屋ごと私の存在を消してくれなかったのだろう。

建築に助けを乞うたのに、答えてはくれなかった。

健康そうに見える町でも、そこに住んでいる人たちは、それぞれ日常に「事情」を抱えて生きている。
その積み重ねは、徐々に人々の心身を蝕んでいく。
苦しいとき、自分の存在がわからなくなったとき、助けを求める先が「建築」でもよいのではないだろうか。—束の間の癒やし、存在を確かめにいだけの場—
これは、過去の私の救済であり、現代を生きる人への処方箋である。

作品詳細

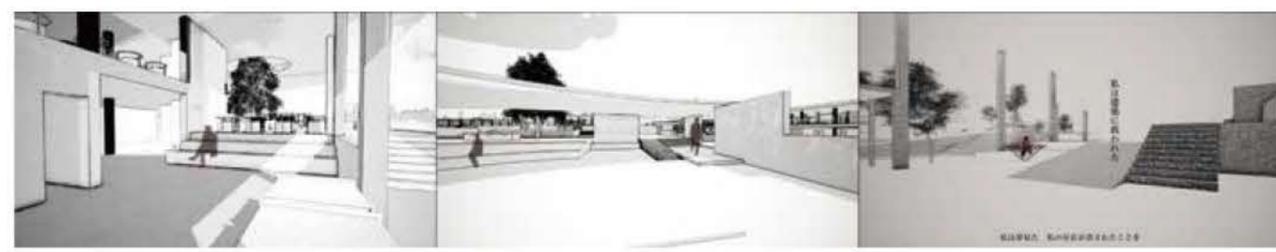
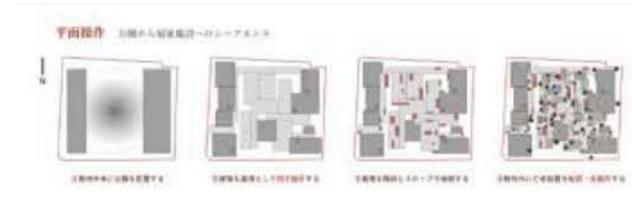
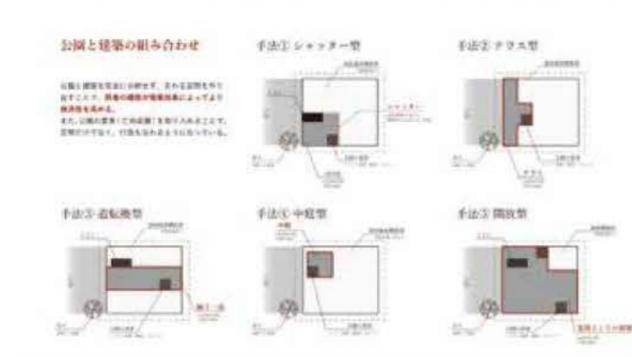
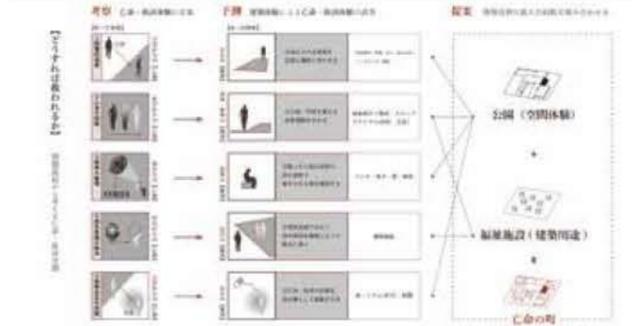


審査員 河原 泰

刺激的なタイトルとプレゼンテーションで本コンクールにおける話題作であった。

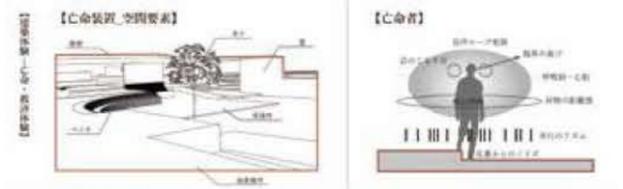
亡命者が救われる公園や建物というのは、見たことも聞いたこともなく、とても興味をそそられる秀逸な設定である。「救われる建築」は、現代社会における未来のキーワードとなるかもしれないと思った。

しかし、ここで提案されている亡命者を救うベンチや木、床や段差などの操作は、期待に反してどれも既視感のあるものであった。亡命を字義通りに捉えると他国に脱出することであり、拡大解釈するとしても、命からがら逃げ出して駆け込むような行動を想起する。それはありきたりの安全の確保や精神の落ち着かせ方ではないはずである。刺激的なタイトルに見合う、空間操作や装置の提案が欲しいと感じた。



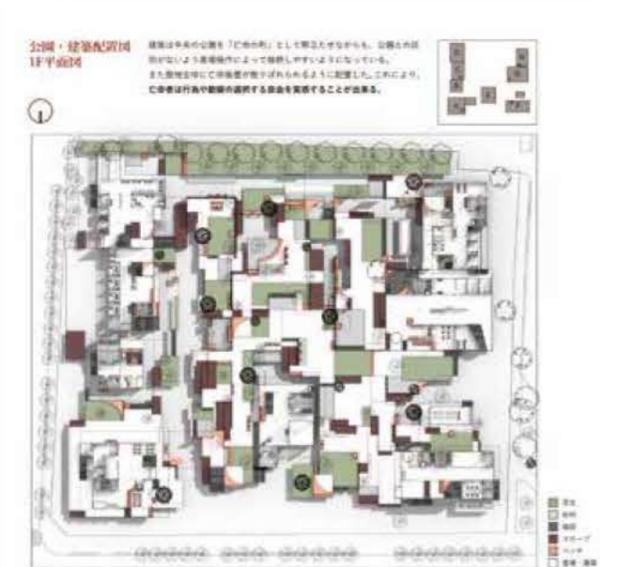
空間・機能遷移 変更履歴

変更内容	変更理由	変更時期	変更箇所
1. 公園・建物配置図	公園と建物の配置を調整し、空間の開放感を高める。	初期設計	公園・建物配置図
2. 家具配置	家具の配置を調整し、空間の機能性を高める。	中期設計	家具配置図
3. 平面操作	平面操作を調整し、空間の操作性を高める。	最終設計	平面操作図



福祉施設の選定 (公共施設の選定)

施設名	選定理由	選定時期
公園	公園は市民の憩いの場であり、福祉施設としての機能を果たす。	初期選定
建物	建物は市民の生活の場であり、福祉施設としての機能を果たす。	中期選定



審査経過



第32回千葉県建築学生賞は昨年と同じ21作品で競われた。大学名を伏せて公開審査が行われ、最優秀賞・優秀賞・特別賞・JIA出展作品・特別審査員賞・JSCA賞が決定された。例年とは違い新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、プレゼンテーションも出展者一人一人時間になってから会場に来て、終わるとすぐに帰ってもらい接触機会を減らす対策を行うとともに、審査中の審査員と出展者の質疑応答の機会もなくなりwebのLIVE配信による遠隔での視聴という形をとることとなりましたが、より作品を理解しようと審査員同士の闊達な意見の交換が見られました。また、会場に入る人数を減らしたことで過去の出展者の会「なの花会」によるなの花会賞は取りやめとなりましたが、一方イタリアより招致させていただいた建築家アントニオ・エスポジト氏がこの賞の意義と熱意に賛同していただき予定通り来日して審査に加わっていただきました。

<審査委員による作品巡回>

例年だとプレゼンテーション後に出展者のブースに審査員が巡回しながら質疑応答する形であるが、今年は出展者にはプレゼンテーションの時間に来場して終わったら帰ってもらう様にしたことから、プレゼンテーション前に審査員へ事前に配布した作品シートからさらに深読みできる様に各作品ブースを巡回理解を深める時間を設けました。

<公開プレゼンテーション>

▶ youtube配信

大型プロジェクターを利用して、1作品あたり持ち時間5分のプレゼンテーションを登録番号順に行った。全ての発表者が、作品の要点のプレゼンテーションを行った。

<一次審査：二次審査に進む9作品を選出>

▶ youtube配信

1次審査は、プレゼンテーションを踏まえ、まずは全21作品に各審査委員の指標に基づき、評価する作品に優秀をつける投票を実施。(投票1-1…各作品に1点もしくは2点を付ける)。投票結



果から、13点・12点を得票した(作品番号02・07・12・16・19)5作品を選出。続いて、是非残したい作品について1作品づつ理解を深めるために議論した上で、追加投票を行った。(投票1-2…良いと思う3作品に1点をつける。)4点を獲得した(作品番号01・04・13・14)4作品を選出し、投票1-1と合わせ計9作品を通過とし1次審査を終えた。

<二次審査：9作品から5作品を選出>

▶ youtube配信

2次審査はまず、9作品を丹念に深掘りしながら意見の交換が行われた。昨年までは出展者に質疑してアピールや反論により討論するところであるが、審査員同士が推したい作品について解説するなどしながら様々な角度で評価をし、投票が行われた。(投票2…各審査員10点の持ち点を3作品に自由配点する)。投票結果から高得点順に27点を獲得したNo.19(「切断」すること、それは「繋ぐ」こと)、15点のNo.02(纏わる壁域)、9点のNo.07(ツイグラシ)、7点のNo.01(歴史を追求する参道)、6点のNo.16(百人町のうらみち・まなびみち)の5作品を選出した。

<三次審査：最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定>

▶ youtube配信

選出された5作品について、それぞれの良い所や不足している視点など厳しい評価基準で意見のぶつけ合いが行われた上での投票が行われた。(投票3…各審査員が3点・1点・1点を3作品に投票する)。15点を獲得したNo.19(「切断」すること、それは「繋ぐ」こと)を最優秀賞とし、9点のNo.02(纏わる壁域)、7点のNo.07(ツイグラシ)を優秀賞とした。

<特別賞：2作品を選出>

▶ youtube配信

最優秀・優秀賞を除く全作品の中から別の視点から評価できる作品を各審査員が推挙して討論し、投票が行われた。(投票-

特1…各審査員2点と1点を2作品に投票する)。9点を獲得したNo.09(TUNA(綱))を選出し、もう1作品を再投票した。(投票-特2…各審査員1点を投票)。3点を獲得したNo.16(百人町のうらみち・まなびみち)が選出された。

<JIA出展：3作品を選出>

▶ youtube配信

再考の可能性もあったが、最優秀賞を受賞したNo.19(「切断」すること、それは「繋ぐ」こと)、優秀賞を獲得したNo.02(纏わる壁域)、No.07(ツイグラシ)の3作品をJIA全国大会への出展を決定した。

*今年は新型コロナウイルス感染症拡大予防のためJIA全国大会は中止となりました。

<特別審査員賞>

▶ youtube配信

特別審査員アントニオ・エスポジト氏もプレゼンテーションから審査に加わり、都度投票に加わりながら、評価をしていく中で特別審査員賞1点を絞り込みNo.19(「切断」すること、それは「繋ぐ」こと)を選出した。

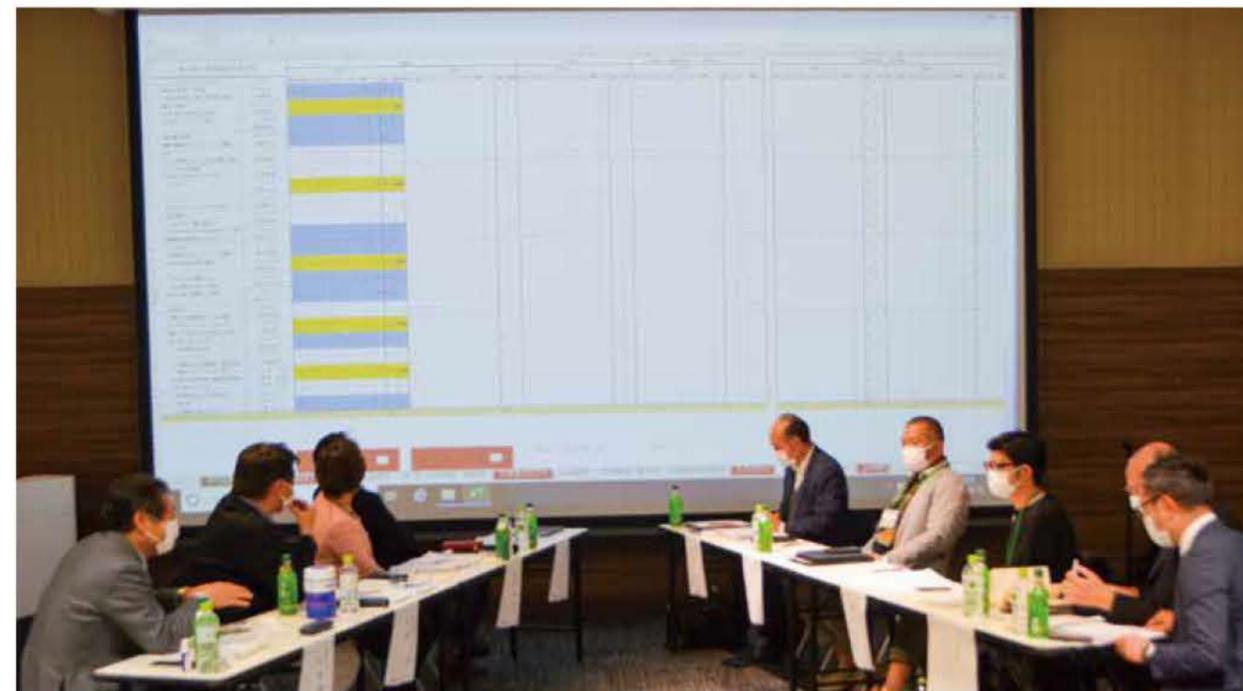
<最後に>

審査員一人一人が審査を終えてのコメントをしていただきました。一詳しくは千葉県建築学生賞HP内のyoutube配信をご覧ください。初試みで音声聞き取りにくいかもしれませんが、来年以降改善していきますのでご容赦ください。-



第32回
千葉県建築学生賞

審査経過



第32回千葉県建築学生賞展	一次審査																二次審査																						
	投票1-1								投票1-2								投票2-1								投票2-2														
	柳田	飯沼	河原	向後	田村	河内	牧野	アノコ	集計	結果	柳田	飯沼	河原	向後	田村	河内	牧野	アノコ	集計	結果	柳田	飯沼	河原	向後	田村	河内	牧野	アノコ	集計	結果	柳田	飯沼	河原	向後	田村	河内	牧野	アノコ	集計
01	歴史を追想する参道 久能山東照宮へ誘う博物館の提案	2	2	1	2	1	1	2	0	11	-	1	1	0	1	0	0	1	0	4	通過	3	1	3					7	通過									
02	纏わる壁域 ある街に再生する広場	1	2	2	2	2	2	2	0	13	通過	-	-	-	-	-	-	-	-	通過	3	5			4	3	0	15	通過										
03	自然の"おもい"を形に	2	2	1	1	1	1	1	9	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
04	野田駅下掘造 談話可能建築によるネットワークの構築	2	1	2	1	2	2	1	11	-	0	0	1	0	1	1	1	1	4	通過		2		1				3	-										
05	Knot リニア開発における地方新駅の設計	1	2	1	1	1	1	1	8	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
06	よみがえれ印旛沼 汚すのは簡単、どうすれば綺麗になるのか過去を学び考える資料館	1	1	1	1	1	1	1	7	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
07	ツイグラフィ	1	2	2	2	2	2	2	0	13	通過	-	-	-	-	-	-	-	-	通過	7		2						9	通過									
08	「かつこ」 近隣コミュニティにおけるコミュニケーション促進のための空間的提案	1	1	1	1	1	1	1	7	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
09	TUNA(綱) 江戸川での橋の設計	1	1	1	2	1	1	1	0	8	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	お茶の魅力を伝えるための空間デザイン提案 静岡県掛川市の空き家をケーススタディとして	2	1	2	1	1	1	1	9	-	0	0	1	0	0	0	0	0	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
11	ASO beans 浦和駅前の子どものためのアソビ空間	1	2	1	1	1	1	2	9	-	0	1	0	0	0	0	0	0	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
12	地理的文脈を現す建築	2	1	2	2	2	2	1	0	12	通過	-	-	-	-	-	-	-	-	通過			3					0	3										
13	私があなたに贈るもの 人生の最期を迎える場所	1	1	2	1	2	2	2	0	11	-	0	0	1	0	1	1	1	0	4	通過								0	-									
14	都市の麓で橋を架かる公園	2	1	1	2	2	2	1	0	11	-	1	0	0	1	1	1	0	0	4	通過								0										
15	団地彩生 農園×シニア=常盤平団地リノベーション計画	1	1	1	1	1	1	1	7	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
16	百人町のうらみち・まなびみち 留学生の生活から知るが「すまいと都市	2	2	1	1	2	2	2	12	通過	-	-	-	-	-	-	-	-	-	通過			3		3				6	通過									
17	梅の香かおる学び舎 音楽再生計画	1	1	1	2	1	1	2	9	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
18	グリッド・サンド 千葉県立中央図書館 増築計画	1	1	1	1	1	1	1	7	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
19	「切断」すること、それは「繋ぐ」こと 日本橋における歴史を切断した首都高速道路の再歴史化	1	2	2	2	2	2	2	0	13	通過	-	-	-	-	-	-	-	-	通過	4	2	3	4	5	5	4	0	27	通過									
20	他人事じゃない話 複合施設型自立支援施設	1	1	1	1	1	1	1	7	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
21	亡命の町 私は建築に救われたかった	2	1	2	1	1	1	1	9	-	1	1	0	1	0	0	0	0	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

三次審査(最優秀賞×1 / 優秀賞×2)																特別賞審査(特別賞×2)																受賞	JIA 出展作品
投票-3-1								投票-特-1								投票-特-2																	
柳田	飯沼	河原	向後	田村	河内	牧野	アノコ	集計	結果	柳田	飯沼	河原	向後	田村	河内	牧野	アノコ	集計	結果	柳田	飯沼	河原	向後	田村	河内	牧野	アノコ	集計	結果	加点	結果		
1								2	-									0	-									0	-		-		
1	1	3						9	優秀賞	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	優秀賞	0	0		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1								1	-									0	JSCA賞		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						2			2	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
3	1	1	1	1				7	優秀賞	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	優秀賞	0	0		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	1	2					9	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	特別賞		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
3	1	1	3	3	3	1	0	15	最優秀賞	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									-	最優秀賞	0	0		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									0	-									0	-		-		
-	-	-	-	-																													

建築学生賞 高校生の部

No.1

佐藤 愛結 さとう あゆみ
千葉県立東総工業高等学校 建設科



描く形

秘密基地

本は積み木のような。

本による知識を積み重ねていくと、自分という形が描かれていく。本の情景を描くことで将来を描くことになる。

その積み上げ、描く行程を、子供から大人まで自分の思うままに行ってほしい。

本を読んでいるときの秘密基地にいるようなワクワク感を、自分の好きな空間で自由に形作ってほしい。

そんな、いろいろな角度から本と触れ合える自分だけの秘密基地。



No.2

平野 温人 ひらの はると
千葉県立東総工業高等学校 建設科



硝子の十字路

図書館は本を読んだり勉強したりする場所」というイメージを変え、人々の交流を生む図書館を設計したいと考えました。

この図書館は4棟の建物が寄り添っている構造です。建物同士の間には幅7メートルの十字型の広大なスペースがあり、ガラスカーテンウォールで一日中光が差し込み、開放感のある造りになっています。このスペースは雨などで外で運動ができない時には、ウォーキングスペースとして活用することができます。また、近隣高校の演奏会や個展などのイベントを開催することもできます。

災害用備蓄倉庫があり、災害時には大人数を収容できる避難所として機能します。



No.3

須藤 冴 すとう さえ
千葉県立京葉工業高等学校 建設科



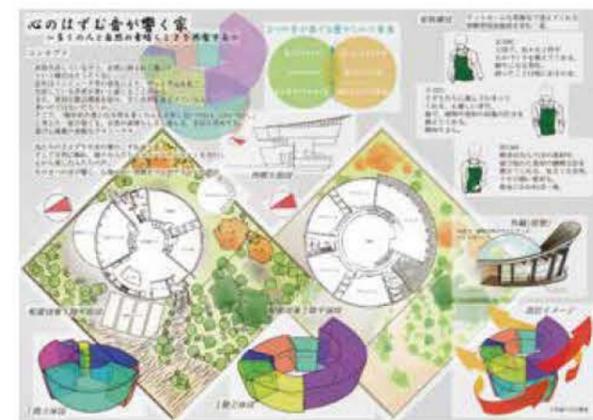
心のはずむ音が響く家

多くの人と自然の素晴らしさを共有する

普段生活している中で、自然に囲まれて過ごすという機会はそうそうない。近年はコンピュータ等の普及により、ずっと手元を見て生活している若者が多いと感じることがある。

また、便利な都会環境を好み、自ら自然を遠ざけている人も多いのではないだろうか。

そこで、「軽井沢の豊かな自然を多くの人と共有しないのはもったいない。」と考えた一家が建てる、自然の素晴らしさ、楽しさ、を伝え共有する遊び心満載の素敵なゲストハウス。



鳥たちのさえずりや木の葉のこすれあう音。そして自然に触れ、様々な人たちとコミュニケーションを交わし心から楽しむ人たちの声。その2つの音が響く、心地の良い空間をコンセプトとした設計。

No.4

岡田 萌那美 おかだ もなみ
千葉県立京葉工業高等学校 建設科



~story of a family~

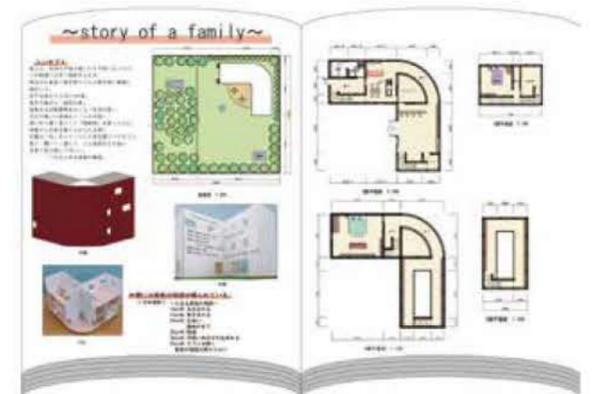
音とは、気持ちが落ち着いたり不快になったり人の感情に大きく関係するもの。

身近な心地良い音を取り入れる事を特に意識し設計した。まずは耳から入る3つの音。

草木や風から「自然の音」、珈琲を注ぎ新聞等をめくる「生活の音」、注文や楽しい会話より「人々の音」。

更に目で聞く音として「擬態語」を取り入れた。

視覚からの音を取り入れられる様に外観は「本」をイメージした住宅兼



ブックカフェ。見て・聞いて・話して、人と自然がふれあい、全身で音を感じてほしい。…これはとある家族の物語。

No.5

古藤 理久 ことう りく
千葉県立京葉工業高等学校 建設科



内なる音を感じる

音という周囲の音や自分で奏でる音のように外から自分の中に入ってくる音というイメージが多いと思うが、狭い空間の中で意識される音にも注目した。

例えば反響しにくい空間では普段、周りの音にかき消されてしまっている小さな音や自分の鼓動、呼吸などが感じられると思う。

それらの音によって心が落ち着き冷静になれ、考え事などをするとき最適な空間になるのではないかと。



Work of the high school student

審査員紹介



審査委員長
柳田 富士雄

Fujio YANAGIDA

千葉大学工学部建築学科卒業
(株)INA新建築研究所を経て、2017年
(株)アーキテックパートナーズ設立

出向元:(一社)日本建築学会 関東支部千葉支所

今年は学生賞、公開審査の実施も危ぶまれる中、審査委員長として直前まで判断に迷う状況でした。「何とか遅れた!」と言うのが正直な気持ちです。終わった後の学生との場外審査バトルが無かったのが心残りでしたが、とにかくこのような状況でも学生たちの建築への思いを受け止めて、返せたかと思っています。



千葉市中央図書館 生涯学習センター



アルカス土浦 太網小学校



高州スポーツセンター



審査副委員長
飯沼 竹一

Takeichi IINUMA

1962年千葉県松戸市生まれ。日本大学理工学部建築学科卒業。
(株)東建築設計事務所にて、病院、交通施設、商業施設などの設計工事監理を担当。建築主とダイレクトに関わりながら一緒に建築をつくりたい思いから2001年独立。アトリエ24一級建築士事務所を設立。個人住宅、クリニック、店舗、福祉施設などをプロデュースしている。

出向元:(一社)千葉県建築士会

学生の皆さんがコロナ禍の情勢の中でも出展し、参加してくれたことに敬意を表します。私たち審査員や協議会一同も、勇気をもってこの審査を公平に実施しました。皆さんにとっても大変な門出になりましたが、この体験が必ず役立つことでしょう。コロナ禍後の新しい社会での活躍を祈っています。



有明客船ターミナル



松波の家#2



地花の家



小仲台の家



審査委員
河原 泰

Yutaka KAWAHARA

1968年生まれ。神戸大学工学部建築学科卒業、1992年(株)東畑建築事務所入社、1997年(株)三菱UFJリサーチ&コンサルティング出向2002年独立。現在(株)河原泰建築研究室代表取締役。
2009年千葉県建築文化賞(回向院市川) 2016年グッドデザイン賞(両国念仏堂) 2019年千葉県建築文化賞(ハレアカラ)

出向元:(公社)日本建築家協会

今年の学生賞は歴史的なパンアミックに晒されている最中での審査でした。これからの時代はスクラップビルドや都市集中ではないのかもしれませんが、最優秀の作品は、造っては壊す都市の歴史に警鐘を鳴らすような提案です。学生の皆さんの作品を見てあらためて建築のあり方を考えなければならぬと感じることのできた審査でした。



回向院市川別院



回向院両国念仏堂



ハレアカラ



審査委員
向後 勝弘

Katsuhiko KOUGO

1953年千葉県生まれ、法政大学大学院修士課程工学研究科建設工学専攻修了、千葉県町村会建築研究所を経て1986年(株)向後構造設計事務所開設し現在に至る。2014年から2018年まで(一社)日本建築構造技術者協会JSCA千葉の代表を務める。
構造設計専門の設計事務所として、建物の耐震改修に数多く関わるとともに、公共建築から個人住宅まで、また、あらゆる構造形式の構造設計を手がけています。

出向元:(一社)日本建築構造技術者協会 JSCA千葉

今回より、JSCA千葉賞を設けました。構造デザインに目を向けた作品も多く見られ、楽しく審査ができました。発想の斬新さに驚くとともに、普段常識にとらわれている自分への良い刺激となりました。皆さんの今後のご活躍を祈念しています。



熱帯植物園(S造)

梓付鉄骨ブレイ外側補強 研修施設(RC造)



審査委員
田村 裕希

Yuki TAMURA

1977年東京都生まれ。東京藝術大学大学院修士課程SANAAを経て、2005年に松岡聡+田村裕希を設立。AR award 2005入賞(Balloon Caught)、2014年日本建築学会教育賞(教育貢献)(「サイトー建築の配置図集」)、2016年日本建築設計学会賞(裏庭の家)、2016年JIA新人賞(裏庭の家)、2018年グッドデザイン賞(エネマネRハウス・近畿大学と共同)、2018年日本建築学会作品選奨(裏庭の家)、2019年住宅建築賞(コートハウス)。2019年より東京工芸大学准教授。

出向元:なの花会

プロジェクトにかけられた時間と理解のための時間の圧倒的な落差こそがこういうイベントの価値だと思います。伝わった/伝わらなかったや理解できた/できなかったを越えて、表現されたものの先や前を見渡す機会を共有できました。ありがとうございました。



ハウスオンサイト(2019,鳥取市)



Balloon Caught (2005,バンクーバー)

裏庭の家(2015,日立市)



審査委員
牧野嶋 彩子

Ayako MAKINOSIMA

1972年千葉県生まれ。日本大学生産工学部建築工学科卒業。
H3年(株)アーツ&クラフツ建築研究所に入所。幅広い視点からの家づくり、まちづくりのプロジェクトに参加する。開発等を含めた様々な仕事に8年間携わり、H15年(株)空間計画提案室を東京都にて設立。
H28年、古民家に特化した(株)人と古民家を千葉市に設立。平成29年千葉県建築文化賞受賞。一級建築士・一級古民家鑑定士

審査を終えて、学生の皆さんの発想力と提案力に驚きました。時代背景を捉えている作品も多く非常にレベルが高かったと思います。



古民家の宿 まるがやつ



Y邸 ハケ岳の別荘



桜を愛でるいえ

審査員紹介



審査委員
河内 一泰

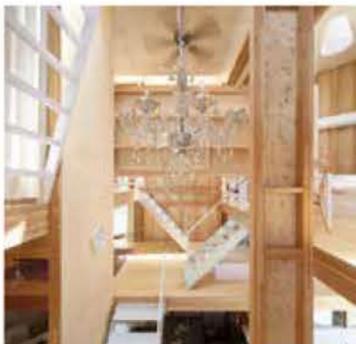
Kazuyasu KOCHI

1973年生まれ。東京藝術大学卒業後、同大学院修了、難波和彦+界工作舎を経て、2003年に河内建築設計事務所 設立。SDレビュー2002 新人賞、AR award 2009入賞 (HOUSE kn)、2013年に日本建築学会作品選集新人賞(アマダハウス)、2015年にJIA新人賞(アパートメント・ハウス)、2019年にJIA東海住宅建築賞 優秀賞(タンザクハウス)。2019年から東海大学工学部建築学科の特任准教授。

リノベーションの時代の建築の可能性に気付かされる面白い作品がたくさんありました。



アパートメント・ハウス(2014.千葉)



タンザクハウス(2018.愛知)

特別審査員



特別審査員
Arch. Antonio Esposito

建築家 アントニオ・エスポジト

1961年 ローマ出身
国立ミラノ工科大学 卒業。建築学修士
ポローニヤ大学 国立科学員
ART_Arquitectura 科学委員会メンバー
ミラノ マリオ・ベリーニ事務所を経て、ポルト街(ポルトガル)の調査、研究等を行い、ブルースキー・エスポジト事務所設立。ポローニヤ大学で教鞭を執りながら現在に至る。
受賞作は、独立200年記念メキシコ・シティ・スクウェア国際コンペ(Bruschi協働)、ウナルキテットウーラ展覧会 他。
フェルナンド・タヴォラ等 出版、執筆多数。モンテレー(NL、メキシコ)近代的、現代的アイテム会議等を開催。
日本に於ける作品は、横浜ビジネスパーク。
(With Studio Mario Bellini)



横浜ビジネスパーク (横浜ビジネスパーク HPより)



Competition for the new Siena stadium.



Row houses in Monopoli



Competition for the south-east coast in Bari



Competition for Libertà sq. in Cesena



Project Financing for the new Monopoli town hall



Free access to the beach and bathing facilities in Monopoli



Plaza Bicentenario in Tlaxcoaque area in Mexico City



Competition for a new square and a new primary school in Bisceglie (Bari)



Competition for the headquarters of the Fundación Arquitectura Contemporánea in Cordoba (Spain)



Competition for Villa della Regina in Turin



Competition This is Tomorrow Fundación Miguel Fisac (Spain)



Competition for the railway areas in Bari



なの花会賞

今年の「なの花会賞」は一般公開審査中止の為、該当作品なし

「なの花会賞」は、第27回大会に設立されました。千葉県建築学生賞に出品したOB・OGで構成する「なの花会」のメンバーが公開審査当日に発表を公聴したり作品を見たりし、審査会終了後に投票・討議して決定する賞です。過去に出品した経験をもつからこそ感じ取れるもの、出品学生に近い立場にあるからこそ見えてくる視点で次世代を担う長く語り継がれる作品を発掘しています。

今年はCOVID-19(新型コロナウイルス)の影響で公開審査は無く出品者と審査員、およびごく限られた役員の参加で審査が行われました。よって、OB・OGの参加も見送られ残念ながら今年は「なの花会賞」を選出することは出来ませんでした。こういったなか関係者のご尽力により公開審査中止からとても短い時間でのYouTubeによる審査状況のネット配信の実施やホームページでの作品公開など関係者の皆様にはなの花会を代表し、また一個人として大変感謝しております。

今回の状況を前向きに捉えるならば全国で活躍する「なの花会」のメンバーが会場へ参加せずともそれぞれの作品のプレゼンテーションを観る事ができ、また会場に足を運ばなくても「なの花会賞」に一票を投じることが出来る可能性が生まれたということではないでしょうか。今までは会場に足を運んだOB・OGのみの選出で賞が決まっていた賞もこれからはもっと多くのOB・OGの意見を取り入れた賞に発展する可能性が見えたような気がします。

「なの花会」は2009年6月に設立されました。「なの花会」では、千葉県建築学生賞の運営サポートとして審査委員および審査コーディネーターの派遣、大会公式ポスターの作成をはじめ、建築視察の報告会や勉強会、メンバーが設計、関係した建築作品の見学会などさまざまなイベントを通じてメンバー同士の交流を深めています。

「千葉から巣立つ学生にエールを送る」という趣旨で設立された千葉県建築学生賞の益々の発展を祈るとともに、「なの花会」がこれからも価値ある人と人との繋がりを育む場となるよう引き続き活動していければと考えております。今回出品者は皆が「なの花会(出品者の会)」のメンバーです。

これからも「なの花会」は、大学や世代の枠を越えた人と人との豊かな繋がりを創造し、幅広いメンバーの交流の場となることを目指していきたいと思ひます。

(第1回出品 なの花会会長 岡松 利彦)



協賛

JSCA千葉 明智克夫 (株)鈴木ユニット 総合資格学院 (有)佐藤建基 (有)巴工業 三協立山(株) (株)桑田建築設計事務所 千葉県建設防水工事業(協) (株)千葉県建築住宅センター (株)レスト 三和シャッター工業(株) 日建学院/(株)建築資料研究社 日本ファイリング(株) 児玉コンクリート工業(株) (有)松原組 (株)千興商事 西松建設(株) 塚本総業(株)千葉支社 (株)オカムラ コクヨマーケティング(株) (株)日立ビルシステム (一社)千葉県建設業協会 (株)丸昭建材 (株)礎積算 日軽パネルシステム(株) (株)メント 岡部(株) アイカ工業(株)千葉支店 (株)千葉測器 (株)辻板金工業所 (協)千葉県鐵骨工業会 日本ERI(株)千葉支店 (株)角藤千葉支店 (株)イトーキ千葉支店 立川ブラインド工業(株)千葉支店 TOTO(株) 東リ(株) リリカラ(株) (有)ミノル商事 (株)須藤黒板製作所 (株)青井黒板製作所 (株)技研基礎 (株)愚田商工 (株)LIXIL関東支社 前田製管(株)千葉支店 日章興(株) 日本高圧コンクリート(株)千葉営業所 文化シャッター(株) (株)格設計 (株)がもう設計事務所 (株)意匠院 河原泰建築研究室 橋本総業(株) 昭和建産(株) (株)セレコ タニコー(株) エスケー化研(株) (株)ビーエルシー東京支店 ロンシール工業(株) 田島ルーフィング(株) ユニシ(株) (株)角井	260-0044 262-0012 273-0005 262-0019 130-0002 261-0023 261-0001 260-0013 260-0013 166-0002 260-0843 260-0032 101-0062 171-0022 344-0022 264-0003 105-6310 260-0005 260-0027 260-0045 260-0031 260-0024 277-0861 339-0074 260-0028 132-0021 131-8505 260-0023 260-8567 263-0002 260-0045 260-0028 260-0031 261-7121 260-0044 263-0016 260-0843 275-0023 260-0001 132-0035 165-0026 260-0843 260-0023 260-0842 260-0007 263-0043 260-0021 264-0025 262-0024 274-0815 260-0027 103-0024 270-1432 370-0603 265-0074 261-0005 263-0003 101-0032 130-8570 260-0032 260-0044 292-0838	千葉市中央区弁天2-16-11(有)市原建築構造設計事務所内 千葉市花見川区千種町241-11 船橋市本町5-4-2森ビル6階 千葉市花見川区朝日ヶ丘4-11-5 東京都墨田区業平1-9-4 千葉市美浜区中瀬1-7-1幕張テクノガーデンB棟20階 千葉市美浜区幸町1-2-2桑田ビル内 千葉市中央区中央4-14-1千葉不動産ビル2階 千葉市中央区中央4-8-5建築会館2F 東京都杉並区高円寺北2-2-1巴善ビル5階 千葉市中央区末広4-19-16 千葉市中央区登戸1-2-20 東京都千代田区神田駿河台3-2新お茶ノ水アーバンビル8F 東京都豊島区南池袋1-16-20 埼玉県春日部市大畑9日神パレステージ112 千葉市若葉区千城南4-11-15 東京都港区虎ノ門1-23-1虎ノ門ヒルズ森タワー10階 千葉市中央区富士見2-3-1 千葉市中央区新田町1-1 千葉市中央区弁天1-15-1細川ビル4F 千葉市中央区新千葉1-4-3WESTRIO千葉オフィス棟6階 千葉市中央区中央港1-13-1建設業センター5F 柏市高田1116-32 さいたま市岩槻区大字本宿232番地 千葉市中央区新町18-14千葉新町ビル5F 東京都江戸川区中央3-5-5 東京都墨田区押上2丁目8番2号 千葉市稲毛区緑町1-18-9新日本オフィスビル4階 千葉市中央区都町2-19-3 千葉市稲毛区山王町202-15 千葉市中央区弁天1-21-3石橋弁天ビル2階 千葉市中央区新町3-13千葉TNビル3F 千葉市中央区新千葉2-7-2 千葉市美浜区中瀬2-6-1ワールドビジネスガーデン(マリブイースト)21F 千葉市中央区松波2-8-1 千葉市稲毛区天台1-5-5 千葉市中央区末広4-18-1 千葉市花見川区幕張本郷5-2-11アトレー幕張101 千葉市中央区都町1-9-2 植草ビル 江戸川区平井7-17-35 東京都中野区新井1-1-5 千葉中央区末広5-8-6 千葉市中央区出洲港9-10 千葉市中央区南町3-2-13 千葉市中央区祐光4-7-10 千葉市稲毛区小仲台6-18-1-406 千葉市中央区新宿2-1-20 千葉市若葉区都賀3-33-23 千葉市花見川区浪花町531-1 船橋市西習志野3-26-8ファインコート北習志野2B 千葉市中央区新田町12-15K16 401 東京都中央区日本橋小舟町14-10中町ビル2B 千葉県白井市富士71-3 群馬県邑楽郡邑楽町中野1453 千葉市若葉区御殿町2529-6 千葉市美浜区稲毛海岸2-1-285 千葉市稲毛区小深町122-1エスケー化研(株)千葉支店 東京都千代田区岩本町1-4-5NS岩本ビル902号 東京都墨田区緑4-15-3 千葉市中央区登戸1-26-1朝日生命千葉登戸ビル9F 千葉市中央区松波2-13-20オフィス松波 千葉県木更津市潮浜1-17-19	043-252-6174 043-257-5754 047-425-8941 090-3202-2780 03-5608-4582 043-296-3292 043-241-7511 043-222-4751 043-222-0109 03-5356-8866 043-265-3030 043-244-0121 03-5294-3011 03-3971-7195 048-734-4583 043-236-3211 03-3502-7625 043-227-8527 043-204-5790 043-207-5581 043-241-1295 043-246-7624 04-7143-0263 048-790-5112 043-302-7177 03-5879-5470 03-3624-5401 043-241-2181 043-232-2541 043-421-13411 043-247-2631 043-203-8551 043-246-1131 043-304-5510 043-252-2821 0570-023301 043-208-1381 043-382-3375 043-231-8450 03-3617-8701 03-3387-3330 043-266-6812 043-242-1377 043-209-2871 043-221-2051 043-287-1211 043-242-4311 043-231-2100 043-272-4193 047-463-9901 043-203-0705 03-3664-5887 047-443-5281 0276-88-2121 043-308-5120 043-248-0791 090-903-6210 03-5829-4336 03-5600-1866 043-244-3711 043-305-5970 0438-37-4121
--	--	--	---

主催者団体

(公社)日本建築家協会千葉地域会(JIA千葉)

- 建築の設計監理を行う千葉県内の建築家の個人及び団体。
会員は、専業設計事務所の主宰者、共同者、所員、官公庁、学校等に所属する建築家

(一社)日本建築学会 関東支部・千葉支所

- 建築に関する学術・技術・芸術の促進発展を目的とする法人。
全国9支部36支所。会員は、研究教育機関、設計事務所、建設業、官公庁、公社公団、メーカー、コンサルタント、学生等多岐にわたる。

(一社)千葉県建築士会

- 建築士法により設立された1級建築士、2級建築士、木造建築士の団体。
会員は、建設業、設計事務所、工務店、官公庁、学校、建設業、不動産業、プレハブ業に勤務する建築士。

(公社)千葉県建築士事務所協会

- 建築士法により設立された建築士事務所の団体。会員は、建築設計事務所、建設会社の設計事務所、工務店設計事務所、不動産会社設計事務所、プレハブ業に勤務する地区設計事務所等。

企画・発行 千葉県建築学生賞協議会

■ 会長	田端友康
■ 審査委員長	柳田富士雄
■ 副審査委員長	飯沼竹一
■ 審査委員	河原泰・牧野嶋 彩子・河内 一泰・向後勝弘・田村裕希
■ 特別審査委員	Arch. Antonio Esposito [建築家・ポローニャ大学国立科学院 非常勤講師]
■ 広報・ポスター委員会	中野正也・蒲生良隆・関谷和則・曾根岡拓路・寺川典秀・古里正
■ 会場委員会	井桁正昭・野村優太・山下 勲・桑田浩司・加藤文男・宍倉義昭・大岩義充
■ 受入・編集委員会	萩原進・佐久間達也・高嶋彰男・小野真路・岡田学・神成健
■ 得点表示委員会	萩原進・佐々木達郎・小野真路・神成健
■ 表彰委員会	磯野智由・岡松利彦・皆川拓・鈴木雄介・笠原由希・林祐介・星野治
■ 市民賞委員会	磯野智由・鈴木雄介・岡松利彦・星野治
■ JIA出展委員会	森田敬介
■ イベント委員会	関谷和則・皆川拓・森田敬介
■ 高校委員会	林祐介・首代昌紀・徳野淳哉・安達文宏
■ 協賛委員会	鈴木周二・鈴木克則・野村優太・山田紀夫・坂本浩史・阿形信・藤平晴男・平宅武司・山本聡・吉浪弘之・岡田修治・長谷川舞・降旗勝義・平瀬慎一郎・合田武彦・高瀬俊輔
■ 交流委員会	平宅武司・鈴木克則
■ オブザーバー	寺川典秀・神成健・森田敬介・宍倉義昭
■ 歴代会長会 (*:執行役員)	明智克夫・清水怡・麓佳正・櫻井修・宇野武夫・佐竹良造・寺川典秀・*・加藤文男・*・森田敬介・*・星野治・*・古里正・*・大岩義充・*・柳田富士男・*・安達文宏・*・神成健・*・中野正也・*
■ 事務局	矢内美恵
■ 編集/デザイン/印刷	株式会社みつわ
■ WEBサイト制作	株式会社みつわ